

# 育教の兒幼

號 一 第 號 月 一 卷三十三第



內校學範師等高子女京東  
會協園稚幼本日

福井直秋先生著

新刊

# 兒童唱歌七十一曲集

全一冊洋裝美本  
定價金七拾壹錢  
送料金六錢

東京音樂學校內 日本教育音樂協會編纂

## 子供の舞踊

卷一・卷二 洋裝美本  
定價各冊金六拾錢 送料各六錢

編纂委員並振付者

伯林グクマン舞踊專門學校卒業  
全日本體育ダンス聯盟理事  
昭和保婦養成所長  
全日本體育ダンス聯盟理事  
東京女子高等師範學校助教授  
全日本體育ダンス聯盟理事

印牧季雄氏  
土川五郎氏  
三浦ヒロ氏

東京府青山師範學校訓導  
全日本體育ダンス聯盟理事  
東京府第六高等女學校教諭  
全日本體育ダンス聯盟理事  
東京府豐島師範學校訓導

澁井二夫氏  
戸倉ハル氏  
宮寺嘉一氏

内容一般

テフテフ・タンボボ・ママゴト・エンソク・コヒノボリ・マリナゲ・オニゴツコ・ジドウシヤ・オヒサマ・チユ  
ーリップ・キンギョ・ミヅアソビ・ハナ・ボチ・アメ・カヘル・オフネ・ワタシハニネンセイ・サクラ・五一デ  
サン・人形ノ兵隊・小サナ遊ビ友達・雨ノヤム時・オ出デナサイ・オウマ・ナミ・ヒヨコ・ダルマサン・ウサギ  
オツキサマ・カケツコ・オヤスミ・フランコ・ナハトビ・ユキ・ピアノ・マメマキ・ギツコン・バツタン・オサル  
スナバホリマセウ・ワタシノオウチ・ヘイタイ・ヒカウキ・十五ヤ・汽車ノタビ・喜ビニミチヲ・國民行進曲

## エホンシヨウカ

春の巻・夏の巻・秋の巻・冬の巻  
定價各冊卅五錢 送料各二錢

發賣所

東京市神田區三崎町一丁目二番地

音樂教育書出版協會

電話九段(25)八三三番  
振替東京六四七七〇

謹んで昭和第八年の  
新正を賀し奉る

昭和八年一月元旦

日本幼稚園協會

役員一同

# 生徒募集

一、本科 七十名  
一、研究科 若干名

右募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三

# 生徒募集

本科生 四十名

研究科生 若干名

願書受付三月廿日迄規則書  
は貳錢切手封入の上申込ま  
れよ。

玉成 保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三  
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十六年。  
大正五年東京市麴町區に創立。  
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、  
附近に森あり、野あり、川ありて四時自  
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然  
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用  
の手工等材料豊富なり。

分類	
N	24
巻	1
子	334

# 保母生徒募集

一 募集人員

六十名

一 出願期日

三月三十一日限り

一 修業年限

一ケ年

一 特典

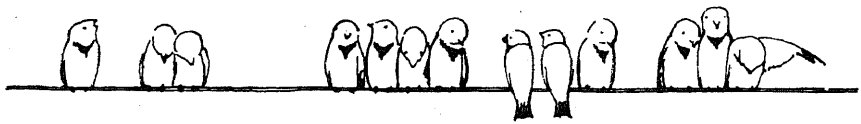
無試験檢定

規則書入用ノ向ハ二錢郵券封入御照會アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一三八八(目白驛下車西へ八丁)

目白幼稚園保母養成所

所長 和田 實



# 第三十三卷 幼兒の教育 第一號

## —(次 目)—

口 繪 東京女子高等師範學校附屬幼稚園	倉橋惣三……(一)
新を喜び新を願ふ(卷頭言)	倉橋惣三……(二)
人々(新春の言葉)	森川正雄……(八)
年頭所感	丸山良二……(二)
幼兒の自己發達	堀 七 藏……(三)
小學校入學に關して	渡部榮藏……(九)
幼兒の唱歌指導	水谷年恵子……(四)
幼兒の言葉	葛原しげる……(五)
酉年に因みて鶏の童謡いろ／＼	高市次郎……(六)
世界人形行脚記(七)	氏 原 銀……(七)
最終の綠會の研究繼續會に列りて	廣 瀬 興……(八)
冬期の保育衛生(其二)	及川ふみ……(九)
動物のスキ	新庄よしこ……(一〇)
かぎ	登 志 衛……(一〇)
お伽つれぐ	大 岩 金……(一〇)
園藝曆(二月—睦月)	土川五郎……(一〇)
遊戲 マノマキ	お茶の水時代……(一〇)

# 小松耕輔・梁田貞・葛原齒生共著

## 新作昭和幼年唱歌

件定送  
奏價料  
附四各  
美十二  
錢

清水良雄 畫伯裝釘

第一輯目次  
園長先生  
人參食べてる  
兎さん  
猿はひっかく  
鸚鵡のお家  
蟲がはねた  
ペンギン

第二輯目次  
驢馬がにゆる  
野原はひろい  
ワクボノリ  
鍔を著たい  
家鴨を数へま  
せう  
毬がつきたい  
たんぽぽ坊主

昭和幼年唱歌 第三輯  
河馬ちゃん  
早く繪や字をかきたいな  
ミンミン蟬がないてるる  
すべり臺  
お芋ころころ  
たんぽぽ坊主

昭和幼年唱歌 第四輯  
二羽の雀  
大鼓はざんざん  
伸びた竹の子  
お父様のお父様お母様の  
お母様  
門番失敬  
たんぽぽさいた

## 新作昭和少年唱歌

件定送  
奏價料  
附四金  
美十二  
錢

清水良雄 畫伯裝釘

第一輯目次  
お官さお寺  
柿の種ミ握り  
やねの上の雀  
はまべの子  
私の箱庭  
ラヂオ體操

第二輯目次  
お家にあかり  
がつきました  
ベリカン  
夕立やんで  
牛ミ馬  
めえく親山  
羊子供山羊  
日暮山霧

昭和少年唱歌 第三輯  
地下鐵道  
田圃の雨山の雨  
アンテナ線がゆれてます  
蛙のブルル  
私のひよこ  
ほっくり浮いたまくわ瓜

昭和少年唱歌 第四輯  
朝日がでてる  
二列三列桐並木  
煙の環  
早起き  
五月の節句  
子兎踊

廣島高師教諭 山本壽先生著  
音樂教育の三大方面  
菊判美裝函入  
定價 四 五〇

小松、梁田、葛原先生著  
文部省 認定 小學歌曲選集  
四六倍判美裝  
定價 一、二〇

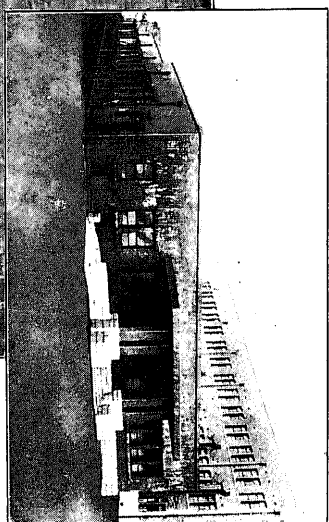
小松耕輔先生著自第一集至第三集  
小松耕輔歌曲集  
四六倍判美裝  
定價 各五十錢

梁田貞先生著 自第一集至第五集  
梁田貞歌曲  
四六倍判美裝  
定價 各五十錢

小松、葛原、梁田先生著  
大正少年唱歌合本  
菊判クロース製  
定價 二圓五十錢

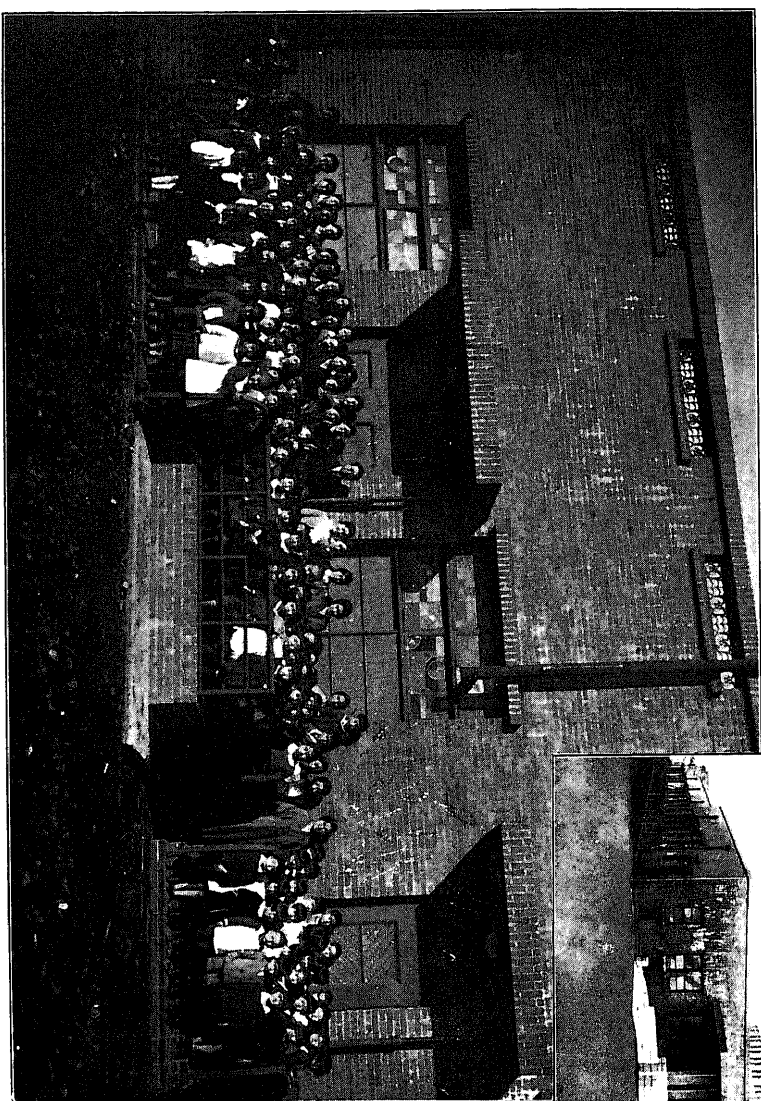
小松、葛原、梁田先生著  
大正幼年唱歌合本  
菊判クロース製  
定價 二圓五十錢





新園舎第一日の朝

遊覧室のテラスにて



東京女子高等師範附校幼稚園稚園

# 幼 児 の 教 育

昭 和 八 年 一 月

## 新を喜び新を願ふ

新らしき園舎、新らしき遊園、新らしき年の始め、こゝに園児を迎へて、われ等に今新らしき喜びがある。

しかも、此のすべてが新らしき中にあつて、何よりも最も眞實に新らしきものは子ども等の心である。日に新たに、日に新たに、また日に新たなるべき子ども等の心である。

ものは時と共にふりゆく。生長する心は時と共に新らしきものを生む。新は新を生むが故に眞に新であるを思ふ時、子ども等の心こそ無限に新らしい。

願はくは、新園舎と新遊園とを、子ども等の心によつて永遠不斷に新らしからしめんことを。今日新らしきが如く明日も亦新たならしめんことを。新築の日を石に刻みて録し留むると共に、願はくは、日々に新らしき幼稚園を子ども等の心に日々に新生せしめんことを。(昭和八・一・九)

(倉橋惣三)

# 人と人

## ——新春の言葉——

倉 橋 惣 三

世の中は忙しい。人は皆仕事を追駈けたり、仕事に追はれたりして居ります。その忙しい慌しい中に總ての人は目的を計劃し計算し理智を生活を送つて居りまして、自ら人々との關係の細やかな味ひを云ふものは薄らいで來るのであります。丁度決勝點を自當に駈け出して居ります競走者が、通り縋りの人々を振向きもせず、舁りもせず、或は邪魔になるものは押除け突き除けてゲン／＼目當に進んで行くと同じやうな有様であります。單にその周圍の人々に冷淡であるといふ計りでなく、自分の目的の爲には總ての人を道具に使はうとする、役に立つか、役に立たないか云ふことだけで人を取扱ふとする。詰り人間を物に取扱つて行くのであります。

斯う云ふ關係は丁度我々の世の中が全體として一つの機械工場のやうになつて居ることも見られる。機械工場の種々の車は密接な關係を以て齒車が組合つて運轉して居りますが、それは唯大きな計劃の下に運轉して居る機械的作用でありまして、その觸れ合つて居る齒車同志の間に何んの感じも無いのであります。若しお伽嘶流に云ひますならば、此の世智辛ひ機械工場の中に齒車は毎日仕事を一緒にして居るのでありますけれども「君疲れた」云ふことさへも云ふ間が無いのであります。「君は少し齒が悪くなつたやうだ、もう少し緩やかに廻らうぢやないか」云ふ話合ひさへも出來ないのであります。この機械工場の機械的な状態が我々人間同志の人の世の中に、その儘の姿を現はして居る云ふことは洵に殺風景

なことを思ひます。

其處で、我々はこの忙しい世の中で、昔の悠長な日向ぼつこに世の中を夢みる譯けには参りませんが、切めては氣持の中にやはり人間を人間とし見、又、取扱ふやうにしたいと思ふのであります。

○

扱て人を人として取扱ふこと云ふことは一體さういふことになるであらうか。私はこれを二つの方面に分けて考へられるかと思ひます。先づ、その一つは自分の周圍に居る人をその人が懇意な人であらうが、見ず知らずの路傍の人であらうが、苟も人である限り、人間としての存在として、これに敬意を拂ひたいのであります。勿論敬意を申ししても、敢て形の上に現はした、悲しい尊敬の形式の上でのみ尊ぶこと云ふことになるではありません。心の底に人を見捨てない、見縊らない、その所謂關心を申すのであります。この人を尊敬するといふことは、その人の社會的位置に於て尊敬することもありませう。或はその人の有つて居る力量に於て尊敬することもありませう。甚だしきは尊敬することだが、或は得が行くといふやうな打算味の加つて居ることさへもありませう。しかし私の茲に云ふ尊敬とは——敬意はさう云ふものではないのであります、その人の身分が低からうが、その人の能力が弱いものであらうが、苟も人である限り、物で無い限り、これを一人の人間として感じて行くといふ意味であります。これは言葉で申せば、如何にも事々しいことのやうであります、この心持を有つて居る人、その心持を全然有つて居ない人、一舉一動の端々に現はるゝところが違つて來るのであります。

卑近なことを申しますれば、今日の東京などの生活に於きまして、如何にその作法が缺けて居るかといふことは誰しも感ずることでもあります。ラッシュアワーの乗物の混雜は暫く止むを得ないといいたしましたが、それ程でもない電車、汽車の乗客相互の作法、往來を通り過ぎて居ります互の間の作法、まるで人を人とも認めない傍若無人の有様であります。こ

れはさう云ふ作法の練習が足りない、さう云ふ訓練が出来て居ないからだ云云申さるゝのでありますが、何故斯う云ふ無作法が行はれ得るか云ふことの心の原因に遡れば、詰り人間同志の先程申しました敬意云々いふものがまるで無いからであらうかと思ひます。何も電車や道路で昔流の生頂面な行儀作法を一々守らなければならぬことはありませんけれども、一寸觸れ合ふ肩の觸りにも、一寸顧みる眼のまたゝきの間にも、自分の傍に人が居るのである。自分の前に人が居るのである。自分の後に人が居るのである云云ふ心持がありさへすれば、もう少し味のある、もう少し優しみのある、もう少し品位のあるこゝが行はれさうに思ふのであります。

私はイギリスに居りました間、實にその點について種々感心したこゝがあります。イギリスの生活は我が國に劣らない多忙な生活であります。イギリス人の頭は我が國人に劣らない理性的な頭であります。社會生活は我が國よりもずつと組織的に、ある意味では機械化されて居りますけれども、その中で一人々々の人間としての接觸云々いふものには、云ふに云へない作法がゆつたり云行はれて居ることを屢々見るのであります。立派な紳士の方がエレベーターに乘ります時に急いで行くボーイを先に乗せて、そつと肩を叩いて笑顔を見せてやる云云ふことはイギリスのホテルで屢々見たことでもあります。イギリスの人は能く「有難う」(サンキュー)云々いふことを云ふに申しますが、私はその外にイギリス人が實に屢々「御免なさい」(エックスキューズミー)云云ひますことに心付いたのであります。公園などで面白いものを見て居りますと、つい興味にかられて自分が前の方へ乗り出して見る、その時に、知らん人の邪魔になる。これは興味にかられて、ついすることにあります。然もさう云心付くすぐに愛嬌のある眼をして「御免なさい」云ふのであります。混み合ひの乗物に乗つて、その乗合自動車が動いたやうな時に身體中が荒々しく打突かり合ふのも止むを得ないことでもあります。その時に兩方が何方が先に云ふこともなく樂々「御免なさい」云ふのであります。この「お免なさい」云ふ一言は或はイギリス人の子供の時から言葉の癖であることも云へませう。けれどもその心持の奥には自分の傍に或る感じを持ち、心持を持ち、

人としての存在を確に有つて居るころの人間が居る云ふ敬意に出發して居るものだと思ふのであります。これは日常の生活に於ける小さい例でありますが、もつ大きな人としての觸れ合ひに於きましても餘りに人を人とは思はないことを、さも偉いことのやうに考へるかと思はれる我が國の風は餘程考へものぢやないかと思ふのであります。

○

次に人を人として遇する云ふことの、もう一つの心持は自分の周圍に居る人はどんな人でも何かしら弱點を有ち、何かしら心の痛み、境遇の悲しみ云ふやうなものを有つて居るものだと思ひ遣ることであります。何も見ず知らずの人に一々そんなことを詮索して見舞を云ふ必要もありますまいけれども、世の中の表面に立つて勢ひ良く働いて居る人もその心の底にはどんな淋しさを有つて居るかも知れない。家庭にはどんな氣懸りのことが残されて居るかも知れない。親が病氣で居るかも知れませんか、そんなことを氣に懸けて、くよくよしては居られないのでありますから、さも元氣に働いて居りますけれども、人間同志としては、さう云ふことがありはしないか云ふゆり心を以て接すべきではなからうかと思ふのであります。能く電車などで、満員の混み合ひの中で車掌さんなどに向つて荒々しく威張りつけて居る客がある。理窟を云へば何方が正しいのか判りませんが、あの忙しい働きをして居る車掌さんその場では強い言葉を出しますけれども、その家庭にはどんなことがあるか、一日の勞を終へて家へ歸る時にどんなに疲れるものであるか、そのゆりの心が微かでも動くならば、さう荒々しくも突劍脊にも取扱へない筈ではなからうかと思ふ。宗教の深い心持の中には人が人を許す云ふことを大層大切なことにしてあります。裁くことなく、責めることなく、あらゆる人を許す云ふ氣持は人間としてむづかしいことではありますけれども、實に尊い心持だと思ふ。然もその許す云ふ心持の極く簡單なるものは、人をその弱きに於て認める、弱きに於てゆるす云ふことに出發すると思ふのであります。この心持が御互の間にありますならば、それを以て總てを好い加減にして終ふことは出来ませんけれども、そこに云ふに云へない柔らかな情味の加つて

来るものだと思ふのであります。

前に申しました人を人として見ないで、物として、道具として、機械として、言換れば自分の目的にどれだけ役立て得るかといふことだけで、人を見る氣持で、それも大事なことでありますけれども、この人はこの人としての心の痛みがあるかも知れぬといふやうな氣持を加へることとは、その人間的接觸の間に於て非常な差別を生じて来ると思ふのであります。我々の學んで居ります道德の教には、或は同情でありますか、或は慈善でありますか、非常に尊い、非常にむづかしい道德が多く教へられて居ります。これ等も私共として勿論大切に心掛けなければならぬことでありますが、日常自分の周圍の人に向つて、それほど大袈裟な道德としてではなく、ホンの心持の、觸合ひの間に、人を人として見てゐるか何うか、といふやうなことは、餘程心掛けて居なければならぬことと思ふのであります。

○

偕斯ういふことは、今の世の中を眺めて唯憤慨し、又攻撃して居つても詰りません。或は又人が自分を人らしく扱つて呉れないといふことに不満を感じ、氣持を悪くして居るだけでも詰りません。若しも人が自分を押除けて、自分に無禮なことでもいたしましたならば、その人は何か忙しいことがあつて止むを得ずさうするのであらう。自分よりも求むるころが多い爲に遂ひさういらしくなるのであらう。或は又何か一身の上に面白くないことであつて、その不平不満からあゝいふ不機嫌な不作法も出るのであらうと、寧ろ斯ういふ風に察したのであります。自分が何う取扱はれるかといふことだけで毎日不快に感じて居るだけでも詰らないのであります。それよりも、自分が人をさう取扱つては居ないだらうか、それこそ私共の考へべきことだと思ふ、毎日朝から忙しい生活を送つて、謂はゞ半分戦場のやうな活動の世界に居りまして、夕刻靜かに考へて見ますと、随分あの時、あの人に、惡氣ではないけれども無禮をした、押除けた、その心持を蹂躪つたといふやうな感情上の細やかさを損ふたことが、誰にも可なり多く思ひ出されるものであります。こ

れを自ら氣を付けて、さういふことを自分はされたとしても、人にはしないやうにさういふことを多くの人が考へましたならば、そこにこの人々人々の世の中をもう少し楽しいものにして行く道が多く見だされやうかと思ふのであります。

精神の修養さういふことは一面に於きましては、自らを自分として完成する。心の汚れを取り、心の弱さを取り、自分の缺點を見、矯正して一人を完うするさういふことも修養の大切な方面であります。この誰にも或は暫く人々離れて自らを密室の上に鍛え上げて置くさういふことは、時には必要なことでありませう。けれども同時に私達は人々人々の間に生きて居るものとして、自分に缺點がありましても、自分の周囲の人に對する取扱方について誤りなきやうにしたい、氣持の届くやうにしたい。人を何う取扱うかさういふことについて心を用ゆることも、これ亦大きな修養道ではないかと思ふのであります。

人の道は種々ありませう。自ら執るべき人の道も、人を人々として遇するの人の道も、同じく大事なものではないかと思ふのであります。若しもお互がこの點に意を用ひまして、自分の心の中のことは暫く自ら處するとして、如何なる時にも周囲の人に對する細やかなる感じ、その尊敬、そのゆり、斯ういふ風なものを忘れずに、日々暮して行くさういふことを心掛けますならば、自ら自分を何うするさういふことでなく、その人々人々の關係に於て、人を楽しくし、體ては我を楽しくして、そこに人間味の豊かなる生活が漲り溢れて行くやうなことになるうかと思ふのであります。

人間同志の互の働きかけが、又斯う云つたやうな互に人々としての取扱ひを忘れない時に何の位の幸福が生れて來るものか深く思ふ譯であります。現代は多忙でありまして、活動の世でありまして、そんな感情的なことなき云つて居る世の中でないさういふならばそれ迄であります。然し如何にもがむしやうな如何にも自己本位に、如何にも横柄に、如何にも不作法に、如何にも傍若無人に振舞うことの、人も私も多いかと思ふ時に、さういふことを何となく顧みずに居られない譯であります。



# 年頭所感

奈良女子高等師範學校教授  
附屬幼稚園主事

森 川 正 雄

八

東京女高師附屬幼稚園は今度その由緒深いお茶の水の園舎を去つて宏莊なる大塚の新園舎に移る事に成り、それと共に日本幼稚園協會の事務所も同時に同所に移轉せられる様に成つた。顧みれば、お茶の水の地に本邦最初の官立模範幼稚園が創設せられて以來五十有七年の長い歳月を閲してゐる。此間、此幼稚園が全國保育界の燈明臺となり指南車となつて斯業の普及發達に貢獻したる其顯著なる功績は長く教育の歴史を飾つて後世に傳へられる事であらう。此幼稚園の發達變遷竝に日本幼稚園協會の事業、さては今の移轉に際しての感慨は本誌前號に倉橋主幹竝に新庄女史の麗文中に能く言現されてゐる。本邦保育界に關係深い人は何れも同様の感を起された事であらう。けに、お茶の水の名は聞く人に一種敬愛の情を伴生せしめるまでに保育關係者に親しまれて居たのである。今、此幼稚園の所在が

變るに聞いては誰も一種愛惜の情を感じざるを得ないであらう。併し又、翻つて大塚の新園舎に思を移す時、さうして將來の盛運を豫想する時に、此の哀惜の情は變じて前途洋々の感を喚起せざるを得ないのである。吾々は此の榮譽に輝く幼稚園竝に日本幼稚園協會の主腦者竝に職員諸先生に對して其の不斷の努力に對して深甚の感謝の情を捧けると共に、斯道將來の隆興の爲に益々自愛自重を加へられん事を切に祈る所である。

我國の幼兒教育も時世の進運につれて次第に充實の度を加へ、特に最近數年はその進歩の速度も著しい様に思はれて喜ばしい。經濟界不況の折柄さて諸學校は極度の緊縮を行つてゐるに、幼稚園や託兒所は緊縮ながらも若干數つ、増設せられて居る。特に農繁期託兒所は年々著しい數を加へ行く有様である。本誌前號の終に記された全國隣保事業

竝保育事業協議會の組織なる計畫なき特に人意を強うるものがある。他日經濟界が好況に轉向したらん時こそ目覺ましい發展が見られるであらう。否々、他面より見れば不況時なるが故に社會事業は一層緊急の施設を要する理由がある。貧兒、不幸兒の愛護の如きは不況の時ほど忙しい。

東京、大阪、京都、名古屋その他の大きい都會地を始め、全國各地では幼稚園や託兒所の内容改善の爲に研究發表會や實地保育の批評會なきが次第に行はれてゐる。特に最も喜ばしい事は府縣市教育部或は保育會の主腦者、有力者が親しく指導督勵の勞を取られつゝある事である。從來、幼稚園や託兒所は兎角に後廻しにされ、又それら保育所の職員の中には適當の指導督勵を受くる機會に乏しく、それが爲に時として疑惑の中に迷ひつゝ時間と努力とを空費してゐる事も多かつたと思はれる。今後は是等研究の進歩と共に保育事業は大に改善せられる様に成るであらう。

幼兒保育の事業は教育の中でも最も會得し難い事だと思はれ、其の爲に自然の成行に任せる事を最上の策の様に思はれても居た。併しよく研究して見れば、必しもさうさ

ばかりでなく却つて仕易い點も少くない事が解かる。その困難の點は丁度醫師が小兒を診療する場合と同じである。

醫師は小兒の口から直接に苦痛の所在を聞き得ざる場合がある。又幼兒が未知の人を恐れて近寄りぬさいふ事や、苦い藥を呑まぬ事や、氣に入らねば勸告を受入れぬさいふ様な難事がある。しかし熟練した小兒科醫は言葉によらずにも徴候によつて病氣を知り、苦い藥は糖皮に包んで呑ませるさいふ様にし苦もなく取扱ふ。熟練した幼兒保育者も亦、小兒の精神狀態や、その行動の性質や、習慣の形成なきを知悉してゐて遊戲中に學ばせ働かせる。小兒は心身共にまだ固定の度が進んで居ず、生活が單純であるから、彼の年取つた學校生徒の複雑な思想や偏向を批判し指導する事に比すれば、相手を知り易く又變へ易い利點がある。併し固より是等についての伎倆は研究と練習によつて始めて得られる事柄である。併し今日最新の學術を以てすれば幼兒教育者は子供の生活の法則に精通する事によつて小兒科醫に劣らざる正確さを以て教育の效を收める事が出来る。此の效果の正確さを得る事こそ實に幼兒保育事業振興

の中心問題であらねばならぬ。

近年、婦人雜誌や、新聞紙の家庭欄や、ラヂオのプログラムに子供の問題が次第に多く取入れられる様になり、一般世人の幼児教育に對する認識を高める事に貢獻しつつある事は誠に喜ばしいことである。併しまだ、此點についての認識充足者が幾人あるか、之を何千萬の大衆に比するとしたら僅少の數と言はねばならぬであらう。英國なごも此點に關しては相似た事情に在るご見え、同國の或識者は次の様に嘆息してゐる。『幼児教育の行届かぬ家庭の子供達は周圍の惡刺激の爲に神經に不當の緊張を生ぜしめて居る。さうして子供達は此の苦難を免れん爲に祕密ご虚偽ごを重要視し之を性格中に固定せしめる危險を侵して居る。しかも此間の真相を看破してゐる父母は千人中一人もないであらう』ご言ひ、之ご共に保育所の必要を強調して『保育所は世間で心配する様な傳染病媒介の場所ではない。良保育所は普通の家庭や街路に於けるよりも病菌の數が少い。日光や、通風や、運動なごが優れて居て病菌に對抗する力が保育所に於て高められる』。ご言つてゐる。又或識者は『數年

前に於ける英國刑務所の罪人一人の經費年額一五〇磅、感化院の不良少年一人の年額一〇〇磅であり、保育學校の幼児一人の經費年額は僅に一二磅に過ぎぬ』。ご言つて、幼少時に於ける性格涵養の必要ご併せて經濟上の有利ごを強調してゐる。

世局の推移、國家の隆昌、國民の能力、幼少時の教育ご語を連ねて思ひを廻らす時、幼児教育に従事する者は新しき歳を迎ふるご共に益々その責務の重大さを痛感せざるを得ないのである。

### 本會事務所移轉

前號で御通知の通り、昨年末、東京女子高等師範學校附屬幼稚園ご共に、新園舎内に移轉致しました。今度の番地は、

小石川區大塚町三五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

# 幼兒の自己發達

東京高等師範學校講師

丸 山 良 一一

兒童は生れながらにして自己發達的である。自己を保存し自己を發展させる性質は、兒童が天賦的に内具するところである。而もこの内的性質は外界からの刺激がなくては實現されない。

身體にしても成長するさういふ性質は兒童が天賦的にもつて生まれるのである。併し外部から榮養や溫度や日光を與へなかつたならば、身體は成長しない。外的刺激さへあれば、または外的刺激さへよければ、よく成長するかさういふに決して然うではない。嬰兒に牛肉や大豆や御飯を與へても殆んど消化しないから彼等の成長の助けはならぬ。むしろ時として害となる。外的刺激は内的發達に相適應しなければならぬ。

精神的の發達に刺激についても全く同様である。内的要求があるからして、外から與へたものを攝取するのであ

る。嬰兒に對して我々成人が與へてゐる外的刺激は日々實に數多いのであるが、それが嬰兒の感官を通じて腦裏に納められてゐるものは、極めて少いさういふ。これは嬰兒の精神發達が漠然とした未分化の状態にあつて、未だ外界の複雑な組織を有する事物や事件を了解するだけに發達してゐないからである。嬰兒が「アア」「ブブ」「ウウウ」なごさういふ自發的の喃語をいふやうになつてから、始めて我々は「マンマ」「トト」「ハイチ」なごの有意味の語を學習させることが出来る。

嬰兒の内的發達を覺醒させるものは、外的刺激であるが、その覺醒がなければ、外的刺激は彼等の行動組織の中に攝取されない。即ち意味のあるものにならない。こゝに於て我々は、兒童がよく了解しよく消化しよく攝取しよく組織化するものは、彼等の心身の發達によく適してゐるか

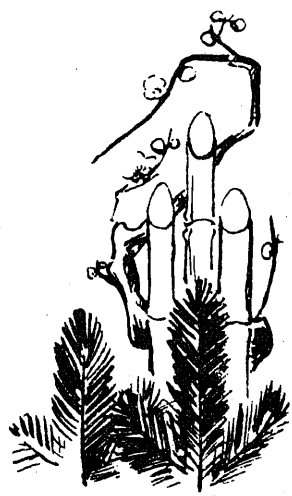
らだミ推定して差支へない。かういふ考へから出發して、幼兒の好むもの、行ふもの、選ぶものを調べ、その事實事件の組織的性質を吟味するならば、兒童の内的發達程度を推察し得るであらう。六七歳の幼兒は童話お伽噺を好む。

童話お伽噺はその舞臺さひひ、その登場人物さひひ共に想像的のもので、而も事件は急速度に展開して何等現實性を帯びて居ない。やはり想像的である。かういふやうな想像的のお話を好むは、この頃の兒童の内的發達の特質が想像的であるからだミ推定するが如きはその一例である。

教育は一面では理想へミ導くのであるが、これは同時に兒童の内的發達に適應してゐなくては、彼等を眞に導くことは出来ない。兒童の心理さひふ立場からいへば、兒童の心意發達の段階を調べて、その大凡を知つてゐるこミが大切である。兒童に自由畫を描かせて、これによつて兒童の内部をのぞいてみるこミも出来る。また彼等の話してゐる言葉を蒐録して、それからこれを整理してみても發達段階を伺ふこミが出来る。また一定の繪畫を觀察させて、これを取去り、それから繪について見たこミを述べさせても

これが出来るのである。大きい兒童であるミ圖畫、作文などの成績によつてその發達を推知し得るわけである。

かゝる研究に於て、最も大切であつて而も最も困難なこミは、蒐集した材料から、特質を發見するこミである、兒童の内部發達に適應する特質を洞察するこミは、餘程修養のある人でないミ出来ない。これが出来ればその道の専門學者である。併し一度示されしこミを學ぶこミは我々凡人でも爲し得る。これを知つて幼兒保育の任に當るこミは一つの大切な條件である。



# 小學校入學に關して

堀 七 藏

規則を引合ひに出しますと、まことに行々しくなりますが、はつきり理會して頂くためには小學校令や同施行規則について説明申上げねばなりません。

小學校令第三十二條には、兒童滿六歲に達した翌日より滿十四歲に至る八箇年を以て學齡とす

學齡兒童の學齡に達したる日以後に於ける最初の學年の始を以て就學の始期とし、尋常小學校の教科を修了したる日を以て就學の終期とす

學齡兒童保護者は就學の始期より其の終期に至る迄學齡兒童を就學せしむるの義務を負ふ

學齡兒童保護者と稱するは學齡兒童に對し親權を行ふ者、又は親權を行ふものなきときは其の後見人を謂ふ

とあります。大變長い條文でありますが、第一項には學

齡について説明してあります。即ち滿六歲に達した翌日から滿十四歲に至る八箇年が學齡となつて居ります。そしてその滿六歲から滿十四歲までの兒童が學齡兒童であります。我が國では幼稚園の子供は幼児と申しますし、小學校の子供は兒童といひます。そして中學校高等女學校などでは生徒と申します。それで小學校令第三十二條に於て、學齡兒童とありますのは、今いつた學齡にある兒童でありますことをはつきり理會して頂きます。

それから第三十二條第二項に、就學の始期と終期が定めてあります。就學の始期は學齡兒童が學齡に達した日以後に於ける最初の學年の始を以てするところになつて居ります。甚だやゝこしい文句ではありますが、四月二日より翌年四月一日までに生れたものは、滿六歲に達した日の以後の最初の學年の始めが就學の始期となることをいつてゐるのであります。就學の終期は尋常小學校の教科を修了した

きを以てすることになつてゐます。それで學齡兒童の保護者は、就學の始期からその終期に至る迄、學齡兒童を就學せしむるの義務を負ふのであります。是れが所謂教育の義務であります。それで小學校教育は義務教育と呼ばれるのであります。最後に説明してありますやうに、教育の義務は保護者、即ち學齡兒童に對し親權を行ふ者、又は親權を行ふものなききは其の後見人が請負ふのであります。學齡兒童をもてる父はその保護者であります。父親がないときは、その後見人たる母、父母共にないときは民法で定められる後見人が、その學齡兒童を就學させねばならぬ義務があるのであります。かくの如くで、學齡兒童、就學兒童とは異なる譯であります。就學兒童は悉く學齡兒童でありませんが、學齡にある兒童は悉く就學兒童ではありません。

一一

學齡兒童は凡て小學校に入學して小學校の教科を修了せねばならぬか申しますと、必ずしも左様ではありません。若し學齡兒童が瘋癲、白痴であるとか、または不具廢疾の爲就學することが出来ないことを認めるときは、市町村長が府縣知事の認可を受けて學齡兒童保護者の義務を免除することに

が出来るといふのが、小學校令第三十三條であります。この義務免除は市町村長が府縣知事の認可を受けねばならぬもので、勝手には出来ません。就學すること能はず認められないにつき、府縣知事の認可を受けて始めて出来ることで、決して勝手な處置をすることが出来ません。

また小學校令第三十三條には、就學猶豫が規定せられて居ります。それは次のやうになつて居ります。

「學齡兒童病弱又は發育不完全の爲就學せしむべき時期に於て就學すること能はず認めたるときは市町村長は其の就學を猶豫することを得。此の場合に於ては直に府縣知事に報告すべし」と規定せられて居ります。時々保護者の方で私の子供はまだ發育がおくれて居りますから、一年位小學校に入學するのを見合せたいと思ひます」などいわれる方がありますが、そんなに容易に義務猶豫にすることが出来ません。「就學すること能はず」と、市町村長が認めなくてはなりませんから、學校醫の證明によりて市町村長が取計ふもので、相當の手續をこらねばなりません。親が一考へて、就學を見合えますなどいふことは出来ないものであります。

それから小學校令第三十五條には、尋常小學校の教科を修了せざる學齡兒童を雇傭する者は其の雇傭に依りて兒童の就學を妨ぐることを得ずとあります。小さな學齡兒童を小僧か、子守か、使用人として雇傭するときは、尙ほ就學の義務があるかどうかを確めることが肝要であります。蓋しまた就學義務のある兒童を雇傭したならば、必ずその義務を果させるやうにせねばなりません。即ち就學の義務を妨げることが出来ないであります。

## 二

今日では殆どない事柄でありますが、幼稚園のない所で、「私の子供は大變發育がよいから、どうか小學校に入れて頂きたい」といふ親があります。しかし小學校令第三十七條には、次のやうに規定してあります。「兒童年齢就學の始期に達せざる者は之を小學校に入學せしむることを得ず」とあります。そんなに發育してゐる兒童であつても、就學の始期に達せざる者よ、小學校に入學させることが出来ないのであります。幼稚園に入れることは隨意でありますが、小學校に入學させることは出来ないのであります。早く義務教育を終らせたいと希望する人がありまして、それは出

來ません。これは小學校長も市町村長にも出来ないことでもあります。

## 四

就學の始期に達すれば必ず小學校の教科を修了させねばなりません。しかし必ずしも市町村立小學校に入學させねばならぬ譯ではありません。小學校令施行規則第八十條に「市町村長は其の市町村内に居住し、翌年四月に於て就學の始期に達すべき兒童を調査し第九號表の様式に依り毎年十二月末日までにその學齡簿を編製すべし」。

但第二十五條第二項に依る場合に於ては、其の年九月に於て就學の始期に達すべき兒童を調査し毎年六月末日までに學齡簿を編製すべしとあります。それで市町村長は學齡簿を編製するのであります。茲に第二十五條とありますのは、次の如き規定であります。「小學校の學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。前項に依る學年の外土地の情況に依り九月一日に始まり翌年八月三十一日に終る學年を置くことを得、となることであります。後の九月一日より始まる學年を秋期學年と稱し、四月一日より始まるものを春期學年と稱して區別することがあります。何れにしても學齡



簿に學齡兒童を調査し、市町村長は兒童をして市町村立尋常小學校に入學せしむべき期日を豫め其の保護者に通知すべし(第八十二條)とありますから手續をいたします。即ち市町村役場より入學せしむべき尋常小學校に入學せしむべき期日を豫め保護者に通知するのであります。それで保護者は、その指定せられた尋常小學校に、指定せられた期日に、その兒童を入學せしめねばなりません。しかし他の尋常小學校に入學させたい場合には、その入學させたい尋常小學校兒童たることを證明した書類を市町村役場に屈出て、それ相當の手續をせねばなりません。

## 五

それで小學校令第三十六條には「學齡兒童保護者は就學せしむべき兒童を市町村立尋常小學校に入學せしむべし。但し市町村長の認可を受け家庭又は其の他に於て尋常小學校の教科を修めしむることを得、官立若は府縣立の學校に於て尋常小學校の教科を授くべき部分、高等學校若は中學校の豫科又は盲學校若は聾啞學校の初等部は兒童就學に關しては之を市町村立尋常小學校と同視す。

とあります。よく注意してこの第三十六條を玩味せねば

なりません。

學齡兒童の保護者は、就學せしむべき兒童をこの市町村立の尋常小學校に入學させるのが本體であります。併し但書により市町村長の認可を受けて家庭又は其の他に於て尋常小學校の教科を修めしむるこゝが出来るのであります。それでこの但書には二通りのこゝが含まれて居ります。

一は、市町村長の認可を受け、家庭に於て尋常小學校の教科を修めしめるこゝが出来ること。

二は、矢張り市町村長の認可を受け、市町村立尋常小學校の他の小學校で、尋常小學校の教科を修めしめるこゝが出来ること。

この二様のこゝが明示してあります。そしてその他の小學校といふのは、「官立若は府縣立の學校に於て尋常小學校の教科を授くべき部分、高等學校若は中學校の豫科、又は盲學校若は聾啞學校の初等部は兒童就學に關しては之を市町村立尋常小學校と同視する」ので有ります。又認可せられた私立の尋常小學校に就學させたり出来るのであります。

家庭に於て尋常小學校の教科を修めしめるこゝは、市町村長の認可を受けて實施するこゝが出来ます。保護者に於

ていろいろの事情のためまたは市町村立尋常小學校に入學させることが子女の教育上好ましくないといふ意見からでも家庭で教育することが出来る譯であります。しかしそれは市町村長の認可を受けることが必要であり、また尋常小學校の教科を修了したことを市町村長が認定せねばなりません。このやうな場合は誠に稀な場合でありますから、茲に長々しく説明する必要がない位であります。そんなに家庭に於て保護者なり、また家庭教師なりが尋常小學校の教科につき完全な教授を施すことが出来ることも、尋常小學校に入學させ兒童の社會生活をなさしめるに越したことがないのであります。一人や二人の兒童を家庭教師や保護者が教へることは眞に學校生活をさせることが出来ません。兒童同志の學校生活、社會生活をさせないことは、國家の一員としての義務教育を眞に施すことが出来ないものであります。故にわが兒のために家庭に於て教育するが如きは成るべく之をさけねばなりません。道德教育及國民教育の基礎を確立すべき尋常小學校の教育は家庭だけでは、到底その目的を達成することが出来ないであります。

## 六

市町村立尋常小學校以外の學校に於て、尋常小學校の教科を修めしむる場合には、次のやうな學校があります。

第一は官立の尋常小學校であります。東京で申しますと、東京高等師範學校附屬小學校及び東京女子高等師範學校附屬小學校、それに學習院及女子學習院の初等科又は前期中期であります。この外に東京盲學校及東京聾啞學校の初等部も兒童就學に關しては市町村立尋常小學校と同視するのでありますが、これは特殊教育であります。

第二は府縣立師範學校附屬小學校であります。東京では東京府青山師範學校、東京府豊島師範學校東京府女子師範學校にあるそれらの附屬小學校がそれであります。

第三は尋常小學校としての認可を受けた私立小學校であります。東京では慶應大學の幼稚舎、成溪學園の小學校、成城學園の小學校、玉川學園の小學校、九段精華學校の小學校、曉星中學の小學部、高千穂小學校、双葉女學校、佛英和女學校の小學校、東京女學館の小學校、川村女學院の小學校、帝國小學校、森村小學校等の私立學校は數へ上げるに相當に多いのであります。凡て尋常小學校として認可を受けたものに入學して、就學の義務を果すことが出来る

譯であります。兎に角家庭又は其の他に於て尋常小學校の教科を修めさせることは普通ではないのであります。先づ特殊な場合であります。ごこまでも就學すべき兒童は、市町村立の尋常小學校に入學させるのが本體であり、これが適當であります。

## 七

官立若くは府縣立の附屬小學校はそれ／＼毎年一月中又は二月月上旬に於て、その小學校に入學せしむべき兒童を決定せねばなりません。それで多くは一月十六日頃から二月五六日にかけて、入學せしむべき兒童を決定いたします。私立小學校でも同様であります。そして二月十日までに指定せられた市町村立小學校に入學しないごを市町村長に届出て認可を受けねばなりません。即ちそれ／＼の小學校兒童たるごの證明書を市町村長に提出するのであります。そこで官立若くは府縣立の附屬小學校は入學志願者につき、身體の發育、精神の發達狀況を検査して入學を決定するのであります。そのごきは満六歳の兒童としての智能を検査するので、決して小學校の學科についての試験をするものではありません。これは中等學校の入學試験なごきは

大に異なる點であります。父兄でもまた世間でも、小學校の入學決定のための検定を入學試験なごき大げさに考へる向がありますが、それは誤解に基くものであります。

例へば東京女子高等師範學校附屬小學校では、第一部に女兒約二十人、第二部で男女各約十二人、第三部で男女各約十五人を募集して居ります。そして女兒の志願者は第一部に對し昨年は四百五十人位もありました。それでその四百五十人位の志願者につき抽籤をして、七十人を入學候補者としたのであります。器械的に抽籤するごは如何にも非教育的であるご非難する方もあります。しかし四百五十人の學齡兒童を一日に検定するごは困難であり、四百五十人を検定した結果につき二十人を入學させるごは實行が困難でもありますから、思切つて器械的な抽籤を至極公平に實施して居ります。七十人抽籤で入學候補者ご決定したものにつき満六歳兒童として精神發達の程度を検定し比較し、更に身體検査の結果を參考して、二十人の入學兒童を選考するのであります。これは入學兒童檢定の一方法であります。私立の小學校なごでは出願順によつて定員を入學させてもよいのでありませう。

# 幼兒の唱歌指導

渡 部 榮 藏

恐らく子供程唱歌を好むものはあるまい。或る意味で見  
るにき子供の生活は音樂の生活であり唱歌の生活に終始し  
て居るに云つても過言ではあるまい。彼等の生活をじつと  
見て居るにたえず唱歌を歌つて居る、唱歌を歌つて居るば  
かりではない、話して居る言葉が殆ど旋律の流れに依つて  
統制されて居る、朝起きてから夜寝る迄の子供の音聲表現  
を音譜に採つてみるならば殆どすべてが或旋律音になつて  
居るであらう。オカアサンミ呼ぶ聲、イヤーヨミいがむ聲  
を初め友を呼ぶ聲、まゝごご遊び、おねだりの語調に至る  
迄皆旋律音の範圍を出でまいと思ふ。もし假に大人の音聲  
生活を散文に例ふならば子供のそれは韻文に例へる事が出  
來よう。子供の音聲生活は詩であり音樂である。彼等はそ  
れを無心に生活して居るのである。入學當初の尋常一年の  
子に「ハナ、ハト、マメ、マス、ミノ、カサ、カラカサ」を

讀ませるに、その單語としての言葉を讀むよりも次の如き  
唱歌にして唱つてしまふ。國語の先生が汗だくになつて訂  
正しても



語感表現などは超然と捨て去つて相變らずリズムに代へ  
メロデーに歌つて了ふ。試みにアイウエオ五十音を、一二  
が四ノ九九を、稱へさせてみれば此の事實が更に明白に裏  
附けられるであらう。「子供は詩人である」詩人は云ふ。  
同じ様に「子供は樂人である」云ひ度い。彼等は何のこだ  
りもなく旋律に生き韻律に遊び音樂を生活して居るから  
である。

幼兒の唱歌指導は此處に規ひ處を定めて行はなければな  
らぬ。此の幼兒の音樂生活を巧みに指導し擴充していく處

に幼児の唱歌指導の使命がある。價值があり、意義がある。だから幼児をして唱歌を生活し音楽を生きて行かしめる事が出来ないならば、凡百の唱歌指導が不利なく却つて百害を醸すに至るであらう。徒らに奇抜な歌曲を探り若くは音楽會等のステージを目標として指導したりする如きは此の弊に陥るものゝ一例である。

以下幼児の唱歌指導に關して希望の二三を述べれば

## 一、音楽上の理論に捉はれぬ事

所謂、理論倒れにならぬ事である。統制された原理に依るは宜しいが多くの場合、部分的抽象的な理論に流れ徒らに樂的眞のみを追ふて行くが之は慎むべき事である。音程がさうの調和がさうのリズムがさうのミ八後しく理論的正確を要求する時子供は唱歌から離れ音楽を疎んじてしまふ、離れてしまつたらそこにはもう爾餘の仕事は總て意義を失つて居る事になる。

我々が幼児の唱歌を聴く時、大別して二つの型を見る。一つは聲を歌ひ音程音長を歌つて居るものであり他の一つ

は歌曲の中味を歌ひ自己の心を歌つて居るものである。その何れを探るか、無論後者を探る。聲を歌ひ理論を歌ふ態度は専門家の方法的態度であり、研究家の科學的領域に屬する。此の態度に幼児を引ずり込んで生命のぬけた唱歌の外形的理論を歌はせるのなら、理論的には幾多の缺陷があつたにしても幼児が心から歌ふ生命の唱歌の方が、遙に教育的であり有意義である。だからさいつて樂論を全然無視して良いさういふのではない。要之、幼児の心情の圓滿な發達に脅威を來す様な事の少しでもあつてはならないこの心やりからの警戒であり、唱謠趣味は、音樂情感の培養には必ず幼児の心理發達の段階を考慮してこの希望なのである。

## 二、技術教練に迫はるゝ如き事のなき様

二、三歳の子供が手足を動かしてあやしげに歌つて居る童謠をきいてみるに、其處には音程もなければリズムもない。併しその子供自身の程度に於ける音程やリズムを以て無心にその童謠の中に浸つて居るではないか。我々は此の童謠に無限の美を感じる。音程ミか音階ミか發聲ミか發音ミか他の諸々の技術的表現素材は一の文化發達の経路に於

て兒童の音樂性を開發していくものである。徒らに技術の

上達を得んとして練習を課しても、それが子供の發達段階に合致せぬ限り無益有害の結果を招來するのみ。だから七聲音階の歌曲をどんなに練習さしても子供は五聲音階の歌曲に訛つて了ふ。理論的の發聲法を無性に訓練してみても決して幼兒には成人にみる様な美しい聲は生み得るものではない。少し位の音程は違つたら違つたでいい、發聲がまづけりやまづいでいい(但し喉を害ねる様な不自然な發聲はいけない)そして其處に自己化された歌曲にでも幼兒が己れを空しうして口誦んで居ればそれでいいのである。短六度が正しくないとか、その附點音符をもつて長くとか云つて、やつきになつて技術を練つてみてもそれを統制していく能力にまで育つてない幼兒はまさに縁なき衆生である。幼兒をしてその能力に於て自己陶醉境にさまよはさんとする教師の心掛こそ、技術ならざる技術を以て目に見えぬ程大きな技術を練磨し得るものと信ずる。巧みに唱はせて參觀人、父兄をあつてさせたり、きれいにそろへて音樂會に喝采を博したりしたいのなら、ごつかのレビューにで

も雇はれない限りあまり必要のない事である。

### 三、唱歌を通しての愛のはたらきである

春の田園に漸く巢立つた子雀を連れ出してその鳴き方を導いて居る親雀の態度で行はるべきである。専門學校ではない。上手な唱歌を歌はせるのではない。小生意氣な幼音樂家をステージに送る爲でもない。歌曲の中に秘められてる藝術的神祕性を教師に於て内感しその感情を通して眞に其の感情を通して以て幼兒への感悟を意味する滲透作用こそ眞の意味での唱歌指導である。幼き時泣きやんで母の胸に聞いたあの子守唄、音樂的には何等の價值も認められぬ程平凡なあの子守唄の唱謠に無限の美を感じるのは何の力ぞ。受持つ子供に音痴の子供があつたらその音痴の子供にも内感させ得る教師の響き、もし啞の子供が居るならその子にも聴かせ得る教師の心の響き、その響きを持つてこそ本當に唱歌を指導する事が出来るものである。此意味で教師は十二分歌曲の生命にタッチし得て、そして幼兒の心情に立歸り彼我の境壁を除いて共に共に歌つていき、タッチし行く處に幼兒教育に於ける唱歌の價值を見出さんとする

ものである。教へるのではない。勿論授けるものでもない。唯同じ場所と同じ心で一所に歌つて居る——その中に必然的に浸潤していく音楽的暗示であり樂的感化である。外形的に整へられた唱歌がたまたま指導者のかうした意識の缺陷によつて興味乾燥な聲音配列ミ化してしまふ様な事は極力警戒しなければならない事である。

#### 四、唱歌を生活させる事

子供の生活は一元的であり綜合的である。だから大人よりずつと樂に音楽を生活し唱歌を歌ひ得るのである。唱歌の中に綜合された自己を見出し得る力は子供の方が遙に優れて居る(我々は此點を見てやらねばならない)けれどもその態度は常に動いてゐる。大人の見る様な自制力がない爲に單一純粹乍らも次から次へミ移つていくのである。唱歌が或特定の場所に塞され限定された時間の束縛を得て行はるゝ事に依つては完全にその使命を果す事が出来ないものである。即ち隨時隨所に口ずさみ居る時、心から歌つて居る時——それが生活であり又指導の目標になるのである。まゝ遊びやお砂場遊びに耽つて居る時、無我の境地に

入つて自づこ口唇の外にもれ出た唱歌がある。その時その子供は眞にその唱歌を生活して居るのである。たゞ外形の作業が歌曲内容ミ相違する事があつてもそれは問題ではない。又遊戲に合せ、歩調に動作に合せ乍ら「オツキサマイクツ」ミ歌ひ「オテ、ツナイデー」ミ誦じて居る子供は屹度その唱歌の心になりきつて居るのである。生活して居るのである。此の際客觀視されたる技術の巧拙唱法の正否等は問題ではない。教師は此の境地に幼兒を導く爲に環境整理、説話、遊戲其他適切なる方法で第一にその唱歌意欲を喚起しなければならぬ。薪に火を附けんミする時マッチを擦つて直ぐその薪に觸れても火はつかない。古新聞、焚つけ其他の燃え易き介在物を燃して發火點に達した時、薪は始めて自ら燃える、自らその内容を燃えて居る姿が生活なのである。平凡な例ではあるが、幼兒の唱歌指導には良い暗示を與へて居る。他の方面から見ても何等かの拍子に子供がいゝ氣持で唱歌を歌ひ出す事が應々ある事實である。此の時都合の許す限りその唱歌を生かしてやらねばならぬ。こめだてするのにはよくよくの事情がなければならぬ。

一寸附言するが教師の示範(範唱)が幼児の能力をあまり距つてはならぬ。専門家の様な立派な技術を以て幼児の前に歌つて聞かせてもそれは宛もカントの哲學でも講義する様なものである。子供の頭上をかすり吹いて向ふの壁にぶつかる丈けのこゝ。此の客觀的表現は幼児の能力の一寸上を行つて居る位でなければならぬ。細心の注意を持つ指導意識を離れてない教師ならば、殆ど幼児の能力の同等の程度の表現に依つて共に唱歌を生活していくのが最もいい態度である。

## 五、幼児の唱歌を惡用してはならない

此の惡用といふ事が教育行事とか云ふ美名の下に相當多く行はれつゝある現状を悲しく思ふ。父兄會、母姊會、音樂會、何々會を催しあざけない幼子を衆人の前にさらけ出して「可愛いこ」の「人形の様だ」の云ふ大人の快感に媚びる如きは唱歌指導の立場からは甚だ賛成の出来ない事である。大人がさうして自己満足に酔ふて居る時、幼児はその純真さを衆人環視の前に踏みつけられて居る。私はステージの上で技術の競争をさせて宛も軍鶏の喧嘩を見てる様

な長閑な氣持で聞いてる人の氣が知れない。又出演兒を或特定の數名に限り残された他兒の心に暗い影を残すなどはたまらなく淋しくさせられる事である。但し他の種々の方向から見ても餘ある教育價值を幼兒の上に認むる場合はいゝし、又深甚なる注意の下に行はるれば如上の如き弊を少なくし得るものである。要之敢くまでも幼兒の立場になつて之を行ひ大人の經營者の功利心や名譽心を満足させんとする様な不純な動機に立つ如きは最も慎まねばならぬ事である。

以上五項に渡つて希望と意見を述べて來たが此の外實際指導上について云ひ度い事が數々あるけれども今回はそれ程に迄筆を入れる事が出来なかつた。歌ふ事であつて筆記性の少い唱歌指導上の事は兎角文には書けぬものが多い。文旨が少し概念的に陥つた様な傾向のあるのはその爲である。其の點隔靴搔痒の感の切なるものがある。



# 幼兒の言葉

水谷 年惠子

## 正しい發音

知人の家で一人の男兒に對して嚴正な言語教育が施されました。此の家では言語學者の父親が非常に周密な注意を拂つて、現代日本の標準語に據つて、男兒がほつり／＼單語らしい言語を言ひ出した頃から、正確な言語教育が始められました。未だ口が廻らないうちから、父母を呼ぶにも標準語により、正しい發音で、「お父さん」「お母さん」を呼

ばせ、おぢいさん、おばあさん、をぢさん、をばさんから、お菓子、牛乳、おいしい、お湯等、何でも正しい發音で正しい言葉をつかふやうに教育されました。牛乳をギーニーだの、お湯をオユードの、おいしいをオイチーだの言はせません。私は自分のこみを「みいたに（水谷）さんがね」なごみ此の兒に話しかけますが、此の子は何時でも明確に「みづたにさん」を呼びかけます。「暖かにしーらん」いけないの

ね」。なごみ話してゐるこ、「それは關西の方言でせう」。こ言ふ。「じやあ何て言ふの」を聞くこ、「暖かにして居ないをいけないつて言ふの」を教へます。しまひには食物なごに、「うまい」を言ふは男の言葉、「おいしい」を言ふは女の言葉、なごの區別を心得て、男の人に向つては「うまい」を言ひ、女の人に向つては「おいしい」を言ふやうになりました。それが未だ三歳頃の事であります。

此の子も外では數々幼兒の言葉を耳にします。世間の母親達はチャ、チュ等の拗音なごを豊富に交へて、あごけなく作りなした言葉を可愛らしい言葉だと思つて、幼兒に向つてしやべつたり、しやべらせたりして居ます。さういふ言葉を此の子も何時の間にか外で覺えて來ます。併し家であつたり口を滑べらせて眞似をするこ、すぐ注意されますので、自分でも其のやうな言葉は良い言葉ではないを知つ

て氣を附けるやうになりました。

所で面白い現象が生じました。それは此の子は一人つ子で弟妹が無いせい、男の子には珍しく人形遊びが大變好きでしたが、其の人形を遊ばせる時、盛に拗音交りの幼児語をしやべつて居ります。

「花子ちゃん、いらつチャイ。抱つこちてあげまちょ。」

「をばチャま、だつこちて。」

「チャ、お菓子を上げまちょ。」

「あたチ、もつこ欲チャワ。」

「チャア、もトチュ(一二)。」

「おいチイ、おいチイ。」

かう言つた工合に、人形の對話を夢中にしやべつて遊んで居ります。一人で人形遊びをおこなしく而も楽しんで爲て居るのですから、父親も唯苦笑する外はありません。

此の子は今既に小學校の六年生で、來年は中學生になるのですが、實に言語明晰、日常の談話から、授業中での答辯、學藝會などでの朗讀、演舌等の明快さ、尋常一年以來小學生の模範として稱讃せられて居ます。これ偏に幼時

の嚴正なる言語教育の賜物であつて、幼兒には正しい發音を以て正しい言葉を教ふべきものである事を知るに足る一つの實例であると思ひます。

### 力音の出来ない子

私の姪で幼時力の發音の出来ない者がありました。「母さま」「烏」「お菓子」「かつこ」「釵」等、力音を含む言葉は訛つて不明瞭な發音をなし、正しい言葉を以て發表する事をなし得ませんでした。母親達がはたでやいゝ責めるので、此の子はもう力音を含む言葉を避けて言はないやうになつて來ました。

或時父親が此の子を風呂に入れて、唄を歌つて居ます。

唄の文句に曰く、

神守(近處の町名)の角の鍛冶屋のかゝさ(妻)がかんす

(蚊)に食はれて痒い。

田舎家の浮世を離れた五衛門風呂の中で、父子が湯につき、子供の身も心も自ら伸びゝゝした折を捉へて、此の即興詩(一)を歌つて聽かせるのですから、自然に面白く子供の耳へ傳はります。子供の口が自然に解けて、つい釣

り込まれて、附いて歌つて見るのであります。

父親は之に味を占めて、盛に力音交りの童謡を作つて、之を歌つて其の効果を収めようと思ひました。そしてよい機會を捕へては歌つたり歌はせたりします。例へば鳥が飛んで行くのを見るこ、之を主題にして、

かあらず、勘六、勘三郎、

かあみ鳴け、柿食へ、勘三郎。

こ囃します。又子供が赤い鼻緒の下駄を穿いて遊んで居るこ、自分も下駄を穿いて庭へ下りて、子供の手を引き、下駄の音をわざとさせて、

赤緒のかつこが からこんこん

母さんかつこも からこんこん

かあいゝかつこで からこんこん

父親の作がうまい譯ではなく、親心が自ら子供の心に沁み、家族の者の心にも沁みて、父親作歌、竝に作曲の童謡が家内中で大流行、食後なご皆打揃つて歌ひ囃して興に入ります。

ねぎ／＼坊主、かんざし買つて

てふ／＼かんざし、花かんざし

かんざし買つて、ここへ插そ

和氣霽々の中に何時の間にやら其の子はちゃんこ力音が立派に發音出来るやうになつてゐました。

### 面白い着想

夕月を見て――

三つになる男の子、七日ばかりの夕月を見て、

「あゝ毀れたお月様」。と言ひました。

此の子の腦裡にはまん圓い月だけが映じてゐたものか、さも珍らしいと言ふ面持で夕月を指して、「毀れたお月様」を申しました。片破月・弓張月・絃月・半月なご大人の名附けた名も色々ありますが、「毀れたお月様」といふ表現の面白味に及ぶものは無いやうであります。

百八歳のお爺さん――

幼稚園を持つて或女學校で百八歳になるお爺さんを聘して生徒に長壽の體驗を話して貰ふことになりました。浦島太郎は百六つと言ひますが、其の浦島よりも二歳年長のお爺さんを、幼児達にも見せて、長壽にあやからせようと言ふの

で、先づ幼児に豫め其のお爺さんのこゝを保母が話して聴かせました。

「皆さん、今日は學校へ浦島太郎よりもつゝ三年の多いお爺さんがいらしやいましたよ。そのお爺さんのお年はね、百八つですよ。」

と言ふに、一人の幼児が、「おー」驚いて、

「こんなに脊が高いでせう。」

と申しました。

さて其の壽老人はさる寺の僧で、目は新聞が讀める程だが耳が遠く、脊が大分かがんでゐました。酒も煙草も飲んだ事がなく、毎日缺かさぬものは味噌汁と梅干、梅干は小田原から樽で取つて日に三箇宛食べる、總じて菜食で少食、滋養分は一週間に一度位攝取するのみだといふ話を講堂の壇立に起立してゐて大聲に話したのであります。此のお話のある間彼の幼児は眼をまん圓くして百八つのお爺さんを見てゐたさうですが、何と思つたやら知る由もありません。

火事を憎んで――

先頃の日本橋白木屋本店の火災はビルディング火災の嚆矢で、お客に怪我は有りませんでした。店員の中犠牲になつて生命を失つた者が有りました。四階のクリスマスツリーを飾つた五色の豆電燈に通じた電流から火を發し、近くの六坪四方の臺の上に満載してあつたセルロイド玩具に移つて凄じい火焰を起し、四、五、六階を火の海に化せしめたのであります。店員の人々は上へ上へ火焰に追はれて逃げ、遂に屋上に上つて、或は救命袋に依り、或は繩を傳はり、或は急を救ひに來た飛行機が投下して呉れた綱で下りて、九死に一生を助かつた者もあつたが、窓から飛んだり、落ちたりして十四名はあへなくなつてしまひました。

此のデパートの火事は其の後數日間いふもの市民の話題の中心になつてゐました。或家庭でも此の間何か一言へば白木屋の火事の話が持出されました。之を聴いてゐる四歳の女の子、始めは口をさがらせて、

「火事を吐つてやる。」

とおこつて居ましたが火事の話を書くに従ひ憎しみを増して、

「火事をなぐつてやる」。

握り拳で打つ真似をしました。怒が最高潮に達した時、今度は、

「火事を刀で切つてやる」。

と言ひました。そして、附加へて

「母さん、そしたら火事何て言ふでせう」。

と尋ねました。

教育書を繙いて味ふ千萬言よりも、火事に對する子供の言葉はもつこく味ふべきものを含んで居るやうな氣がします。

幼児の吐露する片言に、子供の住む世界が窺はれ、子供の持つ人間性が見られ、子供の伸びる將來が暗示されて居ます。人の子の親も、教師も、幼児の言葉にまづ耳を傾け、心に味つて見るべきであると思ひます。

倉橋先生 監修		保育叢書		各冊二錢圓 送		フ レ ー ベ ル 館 發 行
第一編	幼稚園の ための人形芝居脚本	菊地ふ孝子の先生共著				
第二編	自然物おもちゃ	膳真規子先生著				
第三編	幼稚園の手技製作	及川ふみ先生著				
第四編	實驗保育學	和田實先生著				

# 酉年に 因みて 雞の童謡いろいろ

葛原しげる

酉の年、にはごりの年、何でも、今年はごりの年ださう

で、大分、景氣のよさそうなおはなしです。出雲の大神様も、今年は大忙しであらうご、覺悟をしてをられますさうで、まことに以て、お目出度い事の限りで御座います。私共もせい／＼勉強いたしまして、よい童謡を作りましては、小さい方たちに、悦んで頂き、童謡作者として、甲上を置きたいもので御座います。今日もペンをごり、原稿紙をごり、年はごりまして、元氣よく、ニコ／＼ご、ピン／＼ご、あちらの本箱こちらの本棚から、いろ／＼の本やら譜やらごりあつめて座右に重ねて、この稿に、ごりかゝりまして御座います。

一體、コッケッコーミ時をつけ、コケコケコッケッコミ卵を産み、大人に小人に縁故の深い雞で御座いますのに、ほんごの雞、親にはごりの童謡ごいふものは、何うも少ない

のは何うした事なのでせう。

## 親子雞

林柳 澤氏作歌

一、親雞 お先へ コッコッコ

子雞は あこから ビビビ

たべもの探しに 出かけます

二、親雞 大聲 コッコッコ

子雞が あつまる ビビビ

たべもの見つけて たべてます

三、親雞子雞を 見てゐます

子雞は そこらを かけてます

ほんごに 仲よし 親子雞

之に反して「ひよ子」だけの、古くから澤山あります。

一、ひよこ

(文 部 省)

一、ひよこく 小さな ひよこ  
兄弟仲よく 一しよに歩け  
足のつよくならぬうちに

遠くへ行くな 一人で行くな

二、ひよこく 可愛いひよこ

いつでも親にだかれて眠れ  
はねの長くならぬうちに

離れて寝るな 一人で寝るな

二、ひよこ

一、うちのひよこは 可愛らし

親の羽から 顔出して

やさしい聲で ぴくくく

二、うちのひよこは 可愛らし

親のせなかに しまつて

かしら すくめて ぴくくく

二篇とも明治の昔から、よく謳はれたもの、第一のは教訓的であり、第二のは、發見に機微なものがあります。共に可愛らしくて、結構です。近頃のものでは、次の二篇があります。

三、ひよこ

八波則吉氏作歌

一、ピョくピョく 可愛いひよこ

殻をこわして 巣立つた子供

可愛い聲で ひよこは歌ふ

ピョくくくく、ピョく

二、ピョくピョく 可愛いひよこ

日も暖かに お庭を みんな

可愛い足で ひよこは歩く

ピョくくくく、ピョく

三、ピョくピョく 可愛いひよこ

親鳥く餌を 拾つてやれば

可愛い口で ひよこは食べる

ピョくくくく、ピョく

四、ひよこ

島木赤彦作歌

一、ひよこ ひよこ

お前のからだは 草より低い

草に かかれて ぴよ／＼歩く

二、ひよこ ひよこ

お前の趾は 草より稚い

草の芽をふんで ぴよ／＼歩く

三、ひよこ ひよこ

お前の眼は 露より涼しい

露をすつて ぴよ／＼歩く

四、ひよこ ひよこ

お前の心は 親より やさし

親によばれて ぴよ／＼歩く

五、ひよこ ひよこ

お前の寢床は 綿より温い

親のお腹へ ぴよ／＼入る

右の中、第三のは、雛子の生長を敘述し、第四のは、限りなく美化して雛子を讃美したものです。讃美のあまり、

すぎた點もあるかと思はれます。

一體、「ひよこ」に限らず、幼児の生活に即したものは、幾人もの作者によつて、幾篇も同題のものが出来て、實用上では、時々困ります。拙作の中でも、同題のがあります。

五、ひよこ

梁田貞氏作曲

一、ひよこ ひよこ

ピヨ ピヨ ないて

親のまはりで よろこびながら

餌を拾ふ 餌を拾ふ

二、ひよこ ひよこ

ひよこ が 一羽

垣根の外で 迷ひ子になつて

ピヨ／＼ ピヨ／＼

(大正幼年唱歌第五集)

これは大正四五年頃作りました。のちは、これに自分でも作曲して琴で弾いて獨り楽しんでゐます。宮城道雄氏に、ほめられて、あつぱれ／＼、でしたが、後のつゞかな



い作曲家で、今や、あはれくです。

琴さいへば、大正の中頃、少し大きくなつた雛子を作つたのがあります。

六、をんざり、めんざり 宮城道雄氏作曲

一、私のそだてた をんざりが

體も太く 脊も伸びて

今朝から大きな聲をして

コケッコッコー ミ なき出した

早く 明日の朝が来て

また 啼いてくれ コケッコッコー

二、妹の育てた めんざりが

體も太く 脊も伸びて

大きな卵を 今朝ひみつ

うんでゐました うみました

早く 明日の朝が来て

また うんでくれ 大卵

(箏曲童謡 第六集)

此の歌曲の出来た頃には「おさる」や「かたつむり」なきゝ

共に、箏曲演奏會では珍らしいもので、聴衆に、上手や美しさの他に、可愛さ、あざけなさで、ゆきりのある、なごやかな、溫情を覚えさせる役目を果たしたものです。その後、「チョコレイト」で、ニッコリさせられ、「お猿のお顔は」で笑はせられ、「ワン／＼ニャオ／＼」や「町の物賣」「鼻白、鼻黒小僧さん」では、わーッッ笑はされる様になつたのです。

七、雨だれと雛子

一、雨は 止んでも まだ落ちる

屋根から 落ちる

ボチヨン ボチヨン

お日に きらく 照らされて

落ちては 落ちては

チロン チロン

二、晴れた。止んだま 出た雛子

ビョ／＼なけば

ボチヨン ボチヨン

ひよ子 キヨロ／＼見廻して

まだ雨降るか

ビヨン ビヨン

これは雨だれの不思議を、雛子と共に不思議がる幼児の心です。この最後の「ビヨン〜」は

「ビヨ、ン」の二音

ではなくて、「ビ、ヨ、ン」で、三音なのです。雨だれが、下の水溜に落ち込んで、面白く、ボチヨン〜ミ音をたてるのに對照して、雛子がビヨン〜ミなくのです。

さて、近頃、「大正幼年唱歌」「大正少年唱歌」の多少の経験に、新鮮味を加へて、「昭和幼年唱歌」「昭和少年唱歌」を、同じ作曲者小松耕輔、梁田貞兩氏に毎週會合しては、著作中で御座いますが、この第三集にきて、小學國語讀本卷三の第三課の「ヒヨコ」の文によりまして、「私のひよ子」を作りました。本文の題は「ヒヨコ」でありますけれど、前述の如く、あまりに、同じ名の題のものが多すぎますので、後から作りますものは、先出の歌詞へは、一面敬意を表して、反面、混雜を來さないやうに、私共の老婆心は、苦しんで別名をつけてをります。

その「ヒヨコ」の文は、左のまほりです。

(前略) アル アサ オカアサン ガ

「ヒヨコ ガ カヘツタ」

ト オツシヤツタ ノデ、見ニ イキマス、オヤドリ  
ノ ムネ ノトコロ カラ、ヒヨコ ガ、小サナ アタマ  
ヲ 出シテ、ビヨビヨ ト ナイテ、牛マシタ。ハネノ下  
ニモ、一二バ 牛ルヤウデシタ。

ヒヨコ ガ ナクト、オヤドリハ オハナシ デモ ス  
ルヤウニ、ココココト イツテ牛マシタ。

一二三 日 タツト、オヤドリト ヒヨコヲ ニハヘ ツレ  
出シマシタ。ヒヨコ ハ ミンナデ 十バデス。

ヒヨコ ハ ホソイ アシデ、チヨコチヨコ アルキマ  
ス。タベモノ デモ サガスノデセウ、キイロイクチバシ  
デ、トキドキ デメン ラ ツツキマス。

ナノハ ヤ コ米ヲ ヤルト、ヒヨコハ ミンナ ヨツ  
テ キテ タベマス。オヤドリハ ナンニモ タベナイ  
デ、コココト イヒ ナガラ、ソノ ヘン ラ見マ  
ハリマス。(後略)

これを、歌にしたのが次のです。

## 八、私のひよ子

梁田貞氏作曲

一、ひよ子。

ピヨ~~~~、親鳥の  
胸のあたりに のぞいてる  
羽根の下にも 二羽三羽  
可愛い、頭が見えてゐる

私のひよ子 私のひよ子  
二、ひよ子。

チヨ~~~~、細い足  
きいろいろ ぴーヨピヨ  
時々 地面を つゝくのは  
何か たべ物 さがすのか  
私のひよ子 私のひよ子

三、ひよ子。

ピヨ~~~~、かけてきて  
みんな 菜の葉をたべてるこ

親鳥 ココココ、見まはして

何も食べずに見てまはる

私のひよ子 私のひよ子

(昭和少年唱歌第三集)

御覽のまほり文を歌にしたわけで、私の手柄さいふものはないのですが、本文中には「こごめ」を、雛子に與へる事になつてゐますから、第三節に

「みんな こごめをたべてるこ」

しましたのです。するこ作曲者は、異常な心構の人ですから、「雛子には、小米はやらぬ方がいゝんだ」を強い主張であり、出版係の青年さへ、それに強く共鳴したので「菜の葉」にかへました。事實、私共の郷里備後地方では小米を撒いてやりますのに。

ところが、又、元に戻りますが、雛子ばかりが、鶏の詩になるのではない事は、いふまでもありませんが、世の多くの詩人は——童謡詩人は、何故これを、詩化しないのでせう。雑誌『富士』の新年號のために、埼玉縣下の農村で、半日かかつて、漸く撮影して來たさいふ「親にはこり子にはこ

「の寫眞を示されて、これを童謡にしてくれ」の依頼を受けて作り出したものが、幸にして好詩で、悦んでをります。これは、新年號ではありますし、さうでなくても、明るい側面をのみ見たく、世の中の何でも、善意に解したさいニコピン主義の私の立場からも、時節柄さいふ事は、ヌキにしても、求むれば與へられ、叩けば開かれ——努力すれば酬られるさいふ信條の下に、「探しさへすれば、餌はある」までいふ氣になつたのです。そして、題も、編輯局の依頼では「親ざり子ざり」にしてほしいこの事でしたが、それは私自分の二十年前舊作にも、雲雀の親子を歌つて曲もついてゐる「親鳥子鳥」があり、前記の「親子鶏」もありますので、思ひきつて、「うれしいばかりの親鶏子鶏」しましたが、また「うれしいばかりの鶏親子」もしたいと考へてゐます。

## 九、うれしいばかりの親ざり子ざり

一、親ざり 子ざり

コツココ、コケコケ

ピーヨ ピヨ

何故だか 今日も うれしいばかり

探せば 草の實 こぼれ米

さくにも おいしい 餌ばかり

嬉しいばかりの親ざり子ざり

コツココ コケコケ

ピョ／＼ ピーヨ

## 二、親ざり 子ざり

コツココ コケコケ

ピーヨ ピヨ

ほん／＼ みんな うれしいばかり

尾羽根や ミさかの 艶の善さ

ひよ子の可愛いさ 元氣よさ

嬉しいばかりの親ざり子ざり

コツココ コケコケ

ピョ／＼ ピーヨ

「親鶏子鶏」をかいて「おやざりこざり」

ミよむてミが、少しの無理でもないミ信じますが、もし「お

やにはこりこにはこり「こよまれても困りますから、親ざり子ざり」をかきました。

一〇、ひよこ ぴよぴよ

一、雛子 ぴよ ぴよ

雨が降る

急げ 菜畠 麥畠

垣根を ぐぐれば 近道だ

親は 木戸口へ

まはり道

二、雛子 ぴよ ぴよ

雨が降る

道は 砂利道 小石道

すべるな ころぶな つまづくな

親は 木戸口。

まはり道

(「かれがなる」より)

雛子をあはれむ歌です。雛子の可愛らしさの歌です。

もつミ／＼可愛いものでは、「ひよこが卵を産んだら、何

んなに可愛い、卵だらう」こいふのがあります。(子供の科學は、大人の、ほんこの科學とは、全然、別ですから、叱らないで下さい)。

一一、ひよこの卵

一、ひよこは 小さいね 可愛い、ね

ひよこ の めんめは 小さいね

ひよこ の あんよは 可愛い、ね

ひよこ の なきごゑ

ピッ ピッ ピッ

二、ひよこは 卵を うまないか

ひよこ の 卵は 小さかろ

ひよこ の 卵は 可愛いから

ひよこ よ

卵を産んでくれ (「かれがなる」より)

少し變りすぎてゐるかも知れませんが、全く、子供の想像には、大人の制止の手は届きません。

次に、一編、醜い人間世界の縮圖を見せられるやうな「ひよこの世界」があります。

## 一二、はだかの雛子

はだかの ひよこ ビヨ ビヨ

あんよ が 二本 ビヨ ビヨ

えさを ひろつて ビヨ ビヨ

二日目 三日目 ビヨ ビヨ

よく 毛が 生えた ビヨ ビヨ

えさの ぎりつこ ビヨ ビヨ

その聲は、やさしく、ビヨ ビヨ ミ人間の耳には、

聞えますけれど、ひよこ世界の言葉では、たゞ、やさしい  
ビヨビヨではありませんでせう。しかし、生後たつた二日  
目三日目にして、もう、餌の取り合ひ奪ひ合ひがはじまる  
のでした。童謡が、唯々その表面に現はれてゐる事ばかり  
でなく、かくれたる意味の深いものがある時、この作の生  
存價值は、倍加しませう。これは、本質的にはどちらでも  
よいことだと思ひます。

## 一三、鶏舎の番、雛子の番

一、<sup>ミヤ</sup>鶏舎の<sup>シヤウチ</sup>戸口を のぞいたら

雛子は 一羽も るなかつた

めんぎり一羽 が 巢の中で

卵を <sup>ミナモト</sup>うみうみ 番してた

<sup>ミナモト</sup>鶏舎の中で

番してた

二、雛子、垣根の外に出て

みんなで 何か 拾つてゐる

をんぎり 一羽 突つたつて

時々 なきく 番してた

雛子を ひきりて

番してゐる

子を思ふ親の心は、をすながらも、親らしく、家を守る  
は、女のつみめ、なききは謂はないでも、女らしいめん  
ごりさん。

生まれ、めでたいごりの年に、今年は、めでたいごを  
ごりぐくに、ごりあつめて、幼児の世界は、いよく可愛  
らしく、いよく美しく、そして、いよく元氣一ぱいで  
ありますやうに。―― (昭和七、二二、二八午後)

# 世界人形行脚記 (七)

三八

——世界教育大會より歸りて——

フレーベル館社長 高 市 次 郎

## ▽伊太利ミラノ△

アルプス越の鐵道によつてベルンから伊太利へ、北部伊太利のミラノに着く。

ミラノ市は伊太利三都のうちの最も大きい市街を爲す産業都市と言へませう。各種の製造工業が盛んで、就中、絹、毛織物、綿布製品等の外に、美しい彫刻に金箔を施した所謂ビザンチン風の美術的家具や、大理石(アラバスタ)の繊美な彫刻なぞが、主要な産物として賣られてゐます。恰も我が大阪市のやうな感じで、伊太利に於ける金融界の中心をなしてゐます。人口も百萬以上に及び、仲々賑しい。羅馬やナポリはエトランゼイの觀光客で賑ひ、此のまちは各種の産業で繁盛してゐます。

## ▽四百廿年を費したツォーモの建築△

戰亂の絶え間なかつた北部伊太利中世の遺物といふ、到る所、寺院のドームや尖塔を見受けますが、此のミラノのツォーモ(大寺 Duomo)もその一つでありませう。世界第三の大寺院と言はれてゐるだけに、その規模の壯大なことは云ふまでもなく、何しろ西紀一三八六年に起工して、一八〇五年に竣工したといふ、其の工事に四百十九年を費してゐるなごは、性急な我々日本人には聊か見當のつかない驚嘆に値する事實であります。

地下室には壯麗な一區劃があり、其處に硝子の箱の棺が横へられてあります。此の寺院の聖僧セント・ハシスの柩であつて、外部から觀られるその屍體はミイラの如くになつ

てゐるのであらうが、金色燦然たる法衣を纏ふて、端然として久遠の安らかさに喩を閉ぢてゐるさまは、周圍に調和して、幽玄にして又壯嚴な感じに打たれました。

此のゾーモの外廓には二千個の等身大の大理石像がならび、數十の尖塔ぎ雲表に聳え、而もその各々の頂端には聖者の立像があつて壯觀を極めてゐる。善男善女の此のゾーモに參詣するもの誠に多い。

### ▽虚弱兒童の教育△

それから、此の町で私達の注意を惹いたものに、市の虚弱兒童をあつめて、自然療法によつて健康の増進をはかると共に、學業も課する、謂はゞ我が國の林間學校の主旨の如き施設をした學校がありました。かゝる施設は歐洲各地にその類を見ないことはないが、私たちが此處を參觀した時は、氣候もまだ暑く、兒童が一日に三回、何れもシャワーにかゝらせられるといふ、その場所など、市の設立に係る學園だけに、誠に行き届いた設備でありました。廣い長い場所に無數のシャワーが設けられてゐました。蔬菜園、

花樹園、その他の設備もあり、兒童自身が總てこれ等の世話をしてゐます。

をさな兒の思ふがまゝに小春かな

食事は晝と晩に學校から與へられ、私たちは丁度此の可憐な少年少女達が嬉々として食卓に就く時間であつたが、美しく日光に華やぐ青葉の林の下蔭に卓が据えられる。一尺幅程の板に脚をこりつけた簡單な食卓で、その上に子供たちによつて其の日のお獻立が並べられたのでしたが、年長兒童が幼いものをいろいろと指導して用意してゐました。

見るに御馳走はパン、野菜スープ、オムレツと云ふ所、夫れにチョコレートのお菓子がつき、果物としては葡萄の一房が添へてある。一體、伊太利では葡萄が頗る安價であり且つうまい。我が國で二十錢位のものが、伊太利では實に二錢か三錢ほきで、その漿果は蒼く澄徹して水の垂れるやうであります。

透きこほり種までよまる葡萄かな

教室にはムッソリニ首相の寫眞が飾つてあり、ファシズ



ムの思想の行き渡つてゐるこゝを領かせる。

聞けば十年程前から市當局が特別施設として設立したもので、斯うして三ヶ月乃至六ヶ月間を此處に收容し、それ／＼各自の屬する學校に歸らせるものである。その成績は非常によいといふ。

### ▽ナポリを見て

#### 死ね△

私たちはミラノにおいて  
こまをして、午前七時半  
に、南伊太利のナポリを  
さして車中の人となる。

ミラノを發つてから十五時間、首都ローマの訪問を後日に廻はして、午後十時五分にナポリにつきました。

途中は英國や佛蘭西のやうな、あの緑の柔いローンは見られず、恰も我が日本の地形に酷似して、列車は山間を縫



#### ▷靴◁

刻彫石理大たふ購で市ノラミ

ひ、また南歐獨特の美しい蒼空の下に、見渡すかぎり果物園―カンラン、葡萄、梨、桃等の果樹林を走る。各所の高い山頂に一部落を成して白壁の住宅が日光に輝いて私たちの眼底に墮る。車中、十錢一箇を以て葡萄を帶めたが、その安いこゝろ、その甘美なこゝろ！、二人でも到底喰べきれぬ程でありました。

ナポリ市は我が神戸市の如く、市街はなだらかな傾斜になつてゐて、南伊太利獨特の情趣を漂はせた段々街の建物ミ、此の海岸を洗ふ美しい水ミ相照映して捨てがたい風致であります。Ve di Napoli! epoi muori. (ナポリを見て後に死ね) こそへ言はれてゐる。

流石は南歐、地中海岸に於ける氣候は暑い、伯林では曇

が降り、厚地の外套を着てゐたのに、ナポリに來た私たちは浴衣を着て暑さを凌いでものであります。殊にナポリ見物の其の日は暑くろしく、案内者はワイシャツを汗みぎろにしてゐました。

市街には、あの有名な伊太利亞珊瑚、龍甲等の細工物、溶岩に細工を施したもの、貝殻に美しい彫刻を施したものなど賣つ



＜兒なさを＞



＜娘のみく水＞

刻彫小石理大ためともで市ノラミ

てゐる。私は日本の帶止めの飾り程の大さの貝殻に彫刻をして繊細な賦彩をした聖母マリアの像を需めたが、その顔は小豆大で、その崇高端麗な容貌は精緻な技巧を以て見事に表現されてゐた。所謂マイノル、アートミして小美術品が多く賣られてゐる。

▽ミューゼ・  
ナショナル△

此の地の博物館はミューゼ・ナシヨナルとして最も世界的に名高い。古代藝術の最高表現云はれてゐる夥しい大理石像や青銅像や、ボムベイの廢趾から發掘された今から約一千九百年以前の古代文華の燦然として咲き亂れた梯を偲ぶ幾多の藝術品にも心惹かれました。斯うして古代の文化を語るものとしては、埃及カイロの博物館、羅馬ヴェチカの夫れも、此のミューゼ、ナシヨナル等に私の記憶は甦へる。

ボムベイ發掘の女人像は概して着衣のもので裸體のものは殆どない。之れに反し、男子像は全裸の一丝も纏はざるものが多い。そして男子の局部も極めて小さく、符號程度に現されてゐるのも、その雄偉な、逞しい人體美の創造に於けるプロポーションの上の扱ひ方さ想はれる。そして眼球に大概石を嵌めて瞳を白眼を克明に現はしてゐるのも特に私の注意を惹きました。

### ▽船の中の學校△

このナボリの數々街を洗ふ美しい海岸に、老朽の軍艦を

つけて、之を學校とした「船の中の學校」を參觀しました。

校長は海軍少將の制服をつけた立派な人、主に貧民の八歳からの子供を入學させ、機械工業を課し、海事思想を養成し、その適せるものは海軍に、また、志望によつては社會各方面の職業にも振り向けるといふ、社會政策上の一施設として設けられてゐるもので、折から體操の時間で、頗る腕白な連中が、一齊に活潑に動作をはじめたが、その體操たるや、我が國の柔道に酷似してゐて頗る面白い。校長先生、鬚を撫で「日本の柔道の長を採つたもの」といふ。

乞はるゝまゝに署名した參觀人名簿の頁をかへせば、夫れはく夥しい我が同胞の參觀者ではある！、知名の誰れ彼れの名をも懐しく讀まれました。

ナボリの宿に先づ足を伸して、こゝからボムベイへも、またヴェスヴィヤスへも訪れてみようと思ふ。

# 最終の綠會の研究繼續會に列りて

氏 原 銀

昭和七年十二月六日午後三時より、東京女高師附屬保育實修科卒業生の東京及び近縣の就職者より成れる保育研究繼續會がお茶の水園に開催の御案内を辱ふして老姉妹は出席いたしました。當日倉橋先生及川先生新庄先生を初め

して會員五十餘名の出席ありて開會、先づ倉橋先生より研究題幼兒の書き方に付きてのお講話あり、之れを有益に傍聽した事を感謝す、斯くも倉橋先生によりて此會員諸氏の研究を繼續せらるゝ事のお仕合せを慶賀す。

此お茶の水幼稚園も昭和八年一月より、大塚なる立派にうつくしく新築相成りし園舎に移らるゝ事となり、本會の此場所に於ての會合は之れが最終なるを思ひ、此創立五十七年の意義深き歴史を有する園の、惜別の情こ一方新園舎に移らるゝ喜びの念こ悲喜交もぐの心境に打たれ、殊に此園に最も古き關係を有する私の此處に何か懷舊談を述べずして黙過しがたく、昔時の唱歌と遊戲に樂器を使用せざり

し苦心の事柄をお話し致しましたが、少しく申残した處がありますので、此處に之れを補充し且つ他の保育者諸氏の御参考にも成んかき存じまして記する事と致しました。

お茶の水園の明治九年創設せられしより五年間程は唱歌にも遊戲にも樂器を使用せざりしを以て、其保育者は其唱歌を樂器に和した様にうつくしく表現する要有り、依て唱歌の練習に大に勉強をなしたり、此練習の効果は實に著しく其調ひたる旋律に其音量の十分なるうつくしき肉聲の表はれに、保育上は優良なる快感を附與するを得るに至りて樂器に伴ふものよりは却て佳味深き感あり。

遊戲の樂器に伴はざる事も唱歌同様なるも其苦心は唱歌より多く之れは遊戲の動作をなしつゝ美なる肉聲を表はすものなれば、其唱歌の發音の時に高きに過ぎ低きに過ぎて適中を誤り易く尙音量の不足を感じる場合あるも之れが練習によりては立派に苦痛なく遊戲をなさるゝに至る、實に

唱歌竝に遊戲の樂器の力によらざるも練習の如何によりて鍛鍊せられし肉聲の却て美妙の快感を得る事を、以上の如き練習によりて樂器の力によらざる唱歌及び遊戲の其場處の室内戸外を選ばず樂器なき處に於ても、容易になし得られ殊に遠足の時の樂器の携帶なきも立派に遊戲を爲し得るの便宜あり、此の簡便方法をお試みあらん事をお勧め致します。尙新設の幼稚園や托兒所の經費の乏しき場合は、其保育者の唱歌に熟練されたる人を得ば樂器購入の必要なく經濟上の利益あり。

現代音樂研究者の中には樂器の練習には力を入れるも唱歌の練習には餘り勉めざる傾きあるを遺憾とす。之れ唱歌は樂器に伴ふものなりとの考より出でしものならんか。

却説お茶の水幼稚園の昔時に唱歌遊戲に樂器(ピアノオルガン)を使用せざりしに付述べんに、當時遊戲室に立派な「ピアノ」一臺備へ付られたるも、一週中月曜日と木曜日の二回朝の會集の時クララ先生の彈かれて唱歌に和すのみで其他毎日の唱歌遊戲には使用せられざりし。其他我國古來より雅樂に用ひられる六絃の和琴を使用せられしも之れは音の極めて微弱で其唱歌の調子によりて調子を立て變へねばならぬ手数ありて餘りに用ひざりし、何しろ廣き幼稚園

に唯一臺のピアノの遊戲室に備へ付けある事にて使用に不自由なるは當然の事なり、されど遊戲の時なりき使用せられたらんを望むも之を爲れざりしは、クララ先生の本國にて修業せられし主義の樂器を多く使用せずして肉聲唱歌の美點を主眼とせられし者ならん。尙當時樂器は舶來のみで輸入數も少く高價なりし。今日では何れの幼稚園にもピアノ又はオルガンの備付なき所なし依て今昔の感を深くす。

次に庭園の遊び場に付て述べます。此處にはブランコすべり臺梓上り砂遊び場等の設備なく、保育者は幼兒の遊び相手に大に意を用ひたり、即ち鬼子、たゞき鬼、めかくし鬼、かけくら、毬なけ、旗取り、輪なけ、輪廻はし、まゝ事遊びに付て随分活動せり、小西信八先生の主事時代先生が旗を持たれて幼兒の先頭に立ち相手とせられし事は有名なものなりし。終に臨み現代の有様を以てよろしく昔時を想像せられん事を

お茶の水に於ける最終の綠會の繼續研究會に出席してなつかしき思ひ出ふかき此園に惜しき別れの時ぞ來にける

此園に集ひ語らふたのしさもけふをかぎりとなりけるかな

(昭和七年十二月十三日)

# 冬期の保育衛生 (其の二)

醫學博士 廣 瀨 興

(ロ)弛張性熱型 この熱型は熱の高低に關せず、其日差が甚しく、一乃至一・五度の間に在り是は屢々熱性諸病例へば腸チフスの第三期、膿毒症、敗血症、結核病等に睹るもので、弛張熱と稱す。この熱型で其日差が、三乃至四度或は其以上の時は特に之を、消耗熱と稱へ、肺結核によく睹る熱型で(第一圖)、午前は三六度一二分なるに、午後三九度以上にも上昇するが如きである。

(ハ)間歇性熱型 之は熱の發作が數時間に亘り、其最高點は甚だ高きも間歇時には體溫健常の者と異ならず、患者は比較的爽快を覺えるのを特徴とするのである。其熱發作は多くは俄然、惡寒戰慄を以て急に體溫上昇し、其下降も亦迅速にして其際、甚しい發汗するを常とす。而して之に次ぐ所の間歇時即ち、免熱時は一定せず、この定型は殊に、マラリアに來るを以て、通常亦本病を、間歇熱と云つてゐる。

る。而してその發作は正しく時期を刻するもので、每二十四時間に發作するものを、毎日熱と云ひ(第二圖)、隔日四十八時間毎に發作するを、三日熱と云ひ、毎四日に發作するを、四日熱と云ふ。

この他間歇性熱型は殊に亦、膿毒症に於て見るが其發作がマラリアの如く整然たらず、間歇時にも多少、熱發有らざることもなく、且二十四時間中數回惡寒を以て體溫上昇し、下降の際は發汗し、大に疲勞し、虛脱様狀態を呈す。

以上の三熱型は各種の疾病に睹るものであるが、この回歸熱と稱する熱型は、回歸チフスにのみ特有のもので、多くは惡寒戰慄を以て體溫俄かに上昇し、數日間稽留し、次で發汗を來し再び速かに常溫以上或は以下に降り、之に次ぐに數日の免熱時を以てし、再三初發の如き經過を取る所の極めて特徴のある熱型である。

臨牀上の實驗による三人の生命は一定度の高温に至るまでは之を保続するが久しきに亙るに危険で例へば腋窩の溫度久しく四一・五度に留るに、豫後極めて不良なるが如し。

但し回歸熱は比較的持續するも危険でない云はれてゐる。高熱を來すは多くは神經系統及循環器系統に重要な症

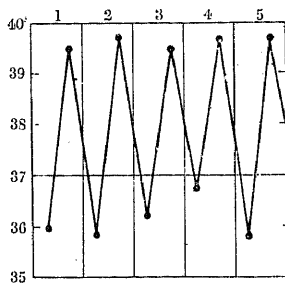


圖 一 第

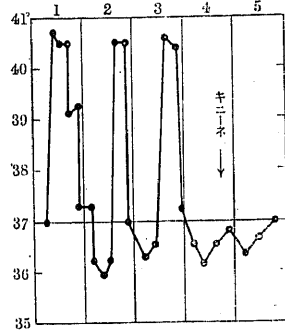


圖 二 第

ふのであつて、從來の最下點のレコードは、三二度である云はれてゐる。平常下體溫は、屢々病的に來るのであつて、

(イ)急性熱性病に於ける分利及虚脱、之は熱性病殊に肺炎の時、急に一日中に高熱より平常下體溫まで下降する所

謂、分利の場合の如きで、其際甚しい發汗があり三四度位の低さにもなるが再び二三日中に平溫に復し、脈搏も漸次強實となり心氣爽快を覚え、治癒に赴く者である。之に反して、虚脱に在つては體溫俄然平溫下に下降し、心臟機能沈衰し脈搏頻數微細となり、蒼白色となり、全身脱

力し、遂に死戰期となり致命するところがある。

狀を呈する場合である。一時的の高熱は良好の轉歸を取るこゝあり、嘗て、脊髓創傷患者の治癒したもので體溫數回攝氏五〇度に上昇した例の報告がある。

(ロ)重症の出血、其他慢性疾患殊に心、肺の重症の時平常下に降ることあり。

體溫下降即ち平常下體溫は三六・二五度以下の場合を云

(ハ)精神病の時に數週の間平常下に下降した例があるが甚だ罕であらふ。(熱項終り)

# 動物のスキー

及 川 ふ み

## 兎

兎の眼と右の耳の中程を赤くぬる。

ふり卷や洋服の上着、ズボンなど適當の色にぬる

## 熊

熊の顔は白そのまゝで上着とズボンなどに色をつける

## 猿

猿の顔は赤く頭は茶色にぬる

洋服の色は兎や熊などと一緒に適當の色にぬる。

兎、熊、猿の色がぬれてから各々をきりぬく。

## スキー

スキーは茶色の模造紙に圖の様に書いてその形をきりぬいて畫用紙で裏うちをする。

點線のところは折り目をつけてそりをつける。

同じ大さのスキー四本は猿と熊のスキーで記號を合せて

はりつける

細くて二本あるスキーは兎の分である

杖の輪は畫用紙で作つてヒゴを通して動物の手に持たせる様にする。

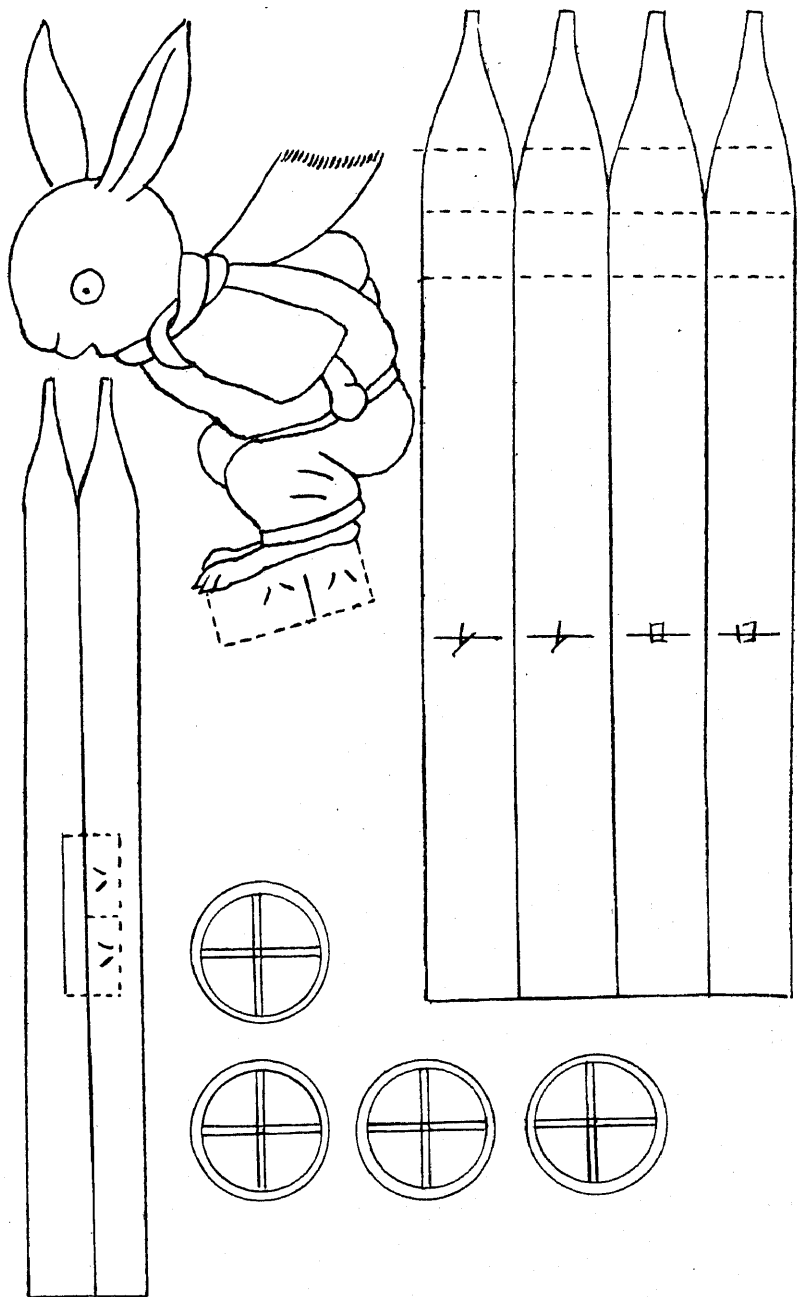
## 臺紙とバック

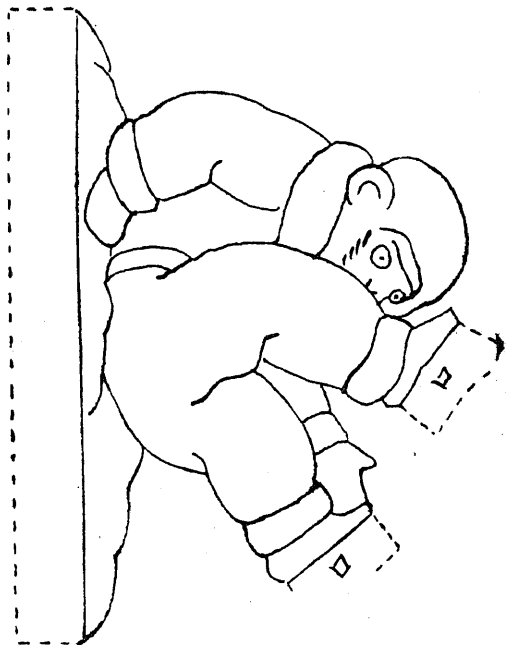
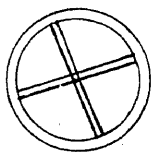
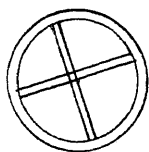
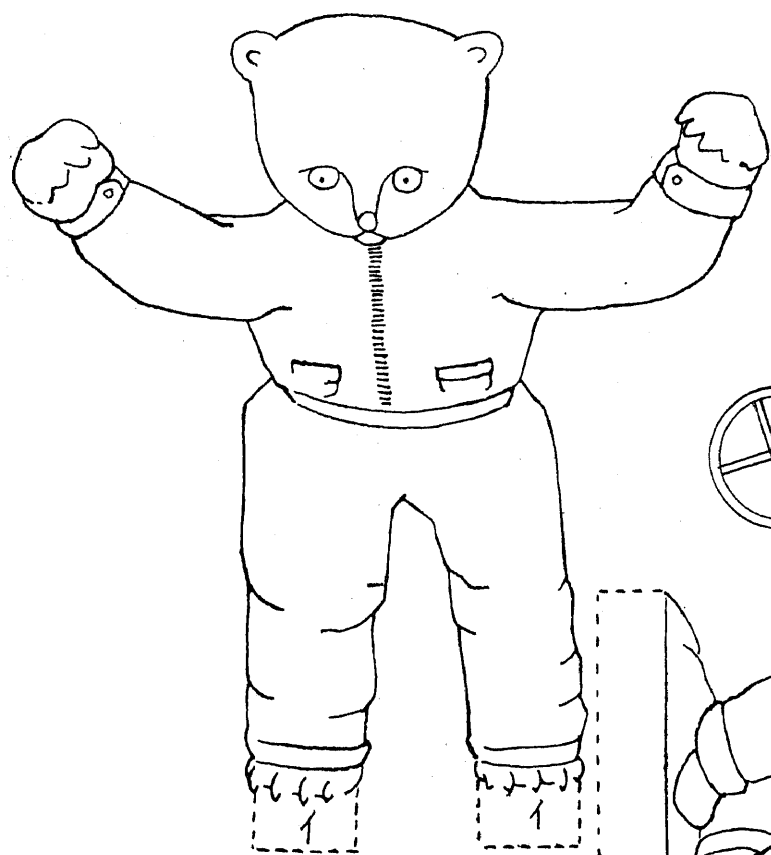
畫用紙八ツ切の臺紙の後の方二センチ位下へ折りまけて前と後との間を少し斜面にする。

バックはやはり畫用紙八ツ切大として遠景に山々を書きコバルトの薄い色で隅より中景に木立や山の家など畫くよい。

熊は左手の前方においてその少し後方右にころんでるお猿をおいてその右手なるべくはなしてうさぎをおく。







か  
ぎ

## 新 庄 よ し こ

まり子さんはかぎを持つのが大好きでした。何だか面白くてたまりませんでした。

お父さまのお室にある大きなデスク、お父様がガチャーンと鍵でおあけになるミ四角な抽出しがスーミ前の方に大きく出て来て、その中にはいろんなものが一ぱいはいつてゐます。御用がすんで又かぎをかけるミ、もうどうしてもお抽出しがあきません。

お母さまが手提金庫をおあけになるのもかぎ、この中にはいつてゐるものをまり子さんは一寸いちづてみたくてたまりませんでした。

「まりちゃん、この中のものはまりちゃんがいちづてはいけないんですよ、大事なもののばかりですからね」

お母さんはかうおつしやつて又かぎをおかけになるミヒタツミしまった金庫の蓋はさうしてもあかないのでござい

ます。

かぎ、かぎ。まり子さんはこのかぎが、おもしろくて、なんだかえらさうで、いつもさう思つてゐました。

かぎをかけて見たくてたまりませんでした。

まり子さんのお家のかぎの箱は、お家のかつかうをしたチヨコレートのあきばこでございます。

「あら、これは鍵の箱に丁度いいこ、まり子さん、お母さまに頂だいね」

リングミこりかへつこした箱なのでございます。ガチャ／＼ミ随分澤山はいつてゐる鍵は、ぎれがぎれだかちつともわかりませんでした。けれぎその中でたつた一つ、それは一番大きなかぎで、西洋館の大きい扉をあけるのだけはまり子さんが知つてゐました。

今日は大晦日、あしたは元日、まり子さんは今度七つになります。さあ皆さんの着物を揃へませうとお母さまは、たんすをおあけになるので、かぎを持つていらつしやいました。

スーさあいた抽出しには、お姉さまの着物、まり子さんの着物、帯、お被布、あのかぎがこんなに、綺麗なきものを澤山出してくれたやうに思つて、それはく嬉しうございました。

さて、お正月になつて、今日はいゝお天気。学校のお式から歸つて来たお姉さんやお兄さんはお父様と明治神宮にお詣りにいらつしやることになりました。

「今日はね、あんまり多勢の人がおまゐりするので、大人ばかり行きますよ、まり子はお留守居していらつしやいね」

とおつしやいました。

お母さまは、お客様でお忙しいし、一人ぢや羽根もつけないし、みかんは食べてしまつたし、少しまり子さんはつまらなくなりました。誰か遊びうかしらと思つたまり子さ

んはふきかぎの箱をデツと見ました、そして中からたつた一つ知つてゐる西洋かんのかぎを出して来て、一人でそつと西洋かんへはいつて、かぎをかけてしまひました。ガヂヤンミ、とても大きな音がして、もう扉はうごきません。何だかまり子さんは嬉しくつてく、えらくなつたやうで、そのかぎを、こつちのたもぎに入れて見ました、又こつちの袂へいれて見ました。あつちへやつたり、こつちへやつたり、ふきころへ入れて見たり、その中くたびれて、まり子さんは寢臺の中にもぐつてしまひました。

「あら、まり子はごうしたんでせう」。

「どこへ行つたんでせう」。

家中大さはぎで、ゐなくなつたまり子さんをさがし始めました。方々のお室から、物置から、お風呂場からおはぐかりから、みんなさがしてみましたけれど、どこにもゐません。

あら、西洋かんらしいわ、扉があかないのよ、ミ唯かゞ云つたのでみんなでこゝ迄こんで来ました。でも、困つたここには、かぎを持つたまり子さんはぐうぐうねてゐます

もの。

仕方がないのでかぎの穴からそーつゝ覗いたお母さんや、お姉さんが小さい穴のところに口をつけて

まり子さあーん

まり子さあーん

こよびましたので、もく／＼起き上つたまり子さんもびつくりしてかぎの穴の所にこんで來ました、かぎの穴の両方からおはなしが始りました。

「まりちゃん、あけて出ていらつしやいよ。」

そこでもこをふつて見ました。

でも困つたことに、まり子さんは一生懸命にさがして見るけれどかぎが見つかりません。

「かぎがないのよ——」

「さがしてごらんないよ——」

「ごいへおいたの」

「私、おふりそでん中にいれまいたのよ」

（洋ふくばかりのまり子さんお袖が長いのでおふりそでだと思つてゐます）。

「ちや お寢臺をよくさがしてごらんないな」  
でもごうしても見つかりません。

「ないの……」

いつ迄待つても仕方がありません。まり子さんは大すきなかぎを自分でかけたので始めは嬉しかったのですが、扉があかなくなつたし、鍵はないし、少し泣きたくなりました。

それでたう／＼鍵屋さんに頼んであけてもらうことになりました。

それから新らしく出來た西洋かんの鍵へ、大きな木の札をつけて、誰にでもすぐわかるようにしておきました。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

# お伽つれぐ

——徒然草より——

登 志 衛

## 猫 又

昔々山奥に猫又といふお化がゐりました。山奥へ人が来る  
ミ猫又が飛び附いて食つてしまひました。その猫又が町の  
中へも出るやうになりました。誰もまだ猫又といふ化物を  
見た者はありませんでしたが、猫又といふお化は何でも大  
きなくく化猫で、尻尾が二つに分れてゐるといふ話でした。  
町の人々は猫又を怖がつて、夜は誰も一人では外へ出ませ  
んでした。それだのに坊さんが一人真暗な夜道を歩いて來  
ました。およばれに行つて、お土産なご貰つて、歸つて來  
る途中で日が暮れてしまつたのです。

「あゝ怖い、怖い」。と思ひながら、やつと自分の家の近  
所の橋の上まで來ました。するさ、いきなり猫又が飛附い  
て食附かうさしました。坊さんは魂消て、

「助けて呉れ、猫又だ、猫又だ」。

ミ大聲を出して叫びました。町の人々は、

「そら猫又が出た、退治しよう」。

ミ刀を提げ、松明をさもして、ぞろ／＼出て來ました。  
橋の上に來て、暗い川の中をのぞくミ、坊さんが川の中へ  
落つこつてゐて、土産物も水に漬かつてしまつてづぶ濡に  
なつてゐます。大急ぎで坊さんを川から引上げて、

「猫又は何處へ行つた、猫又出て來い、切つてやるぞ」。

ミ町の人々は松明のあかりで、その邊を捜しましたが、猫  
又は何處にも居りませんでした。そして坊さんのうちの犬  
が濡鼠の坊さんにちやれて尻尾を振つて居りました。坊さ  
んが猫又たミ思つて吃驚仰天したのは、此のうちの犬だつ  
たのです。

猫又といふお化は本當は何處にも居なかつたのです。

## 士大根

昔々西の方の國に一人の殿様がりました。此の殿様は子供の時分から大根がお好きで、毎朝々々大根を焼いて二本づつ、二本づつ召上りました。

或時、家來達が一人残らずお使ひに行つてしまつて、お城の中には殿様がたつた一人で留守番をしてお出でになりました。そこへ遽かに大勢の敵が押寄せて、お城の門を破つて攻入りました。殿様が、「あつ」を驚いていらつしやるに、お城の奥の方から、一度も見たことのない強さうな武士が二人出て来て、大聲をあけて、

「やあ、敵の者ども、千人でも萬人でも一度にかゝつて来い。みんな首をすつ飛ばしてやらう」。

さびなりました。

「なんだ、へなちよこ武士が、生意氣言ふなつ」。

さ敵の大軍は一度に二人の武士へかゝつて行きました。二人の武士は車の輪が廻るやうに、兩手に持った刀をぐるぐる廻して敵の大軍を戦ひました。

二人の武士があまり強いので、敵軍は、

「これはかなはぬ、逃けろ」。

さ一人残らず逃けて行つてしまひました。殿様は二人の武士の勇しい動きを褒めて、

「あつばれ、く。大勝利々々々」。

さお褒めになりました。二人の武士は、

「私どもは殿様の毎朝召上つて下さいます大根で御座います。お禮に今日は殿様をおたすけ申上げに來ました」。

と言つて、ふつさ消えてしまひました。

## 榎の僧正

昔々或處にお寺がありました。そのお寺の坊さんは大變なおこりん坊で、すぐに腹を立てるのが癖でした。此のお寺の庭に大きな榎が一本あつたので、人々が此の坊さんの事を、

「榎の僧正様」。

さ呼びました。するさ坊さんはすぐ腹を立て、

「何だ、人のこゝを榎の僧正様だ、そんな事を言ふなら榎

を切つてしまふぞ」。

ミ言つて、鋸を持つて來て庭の榎を切つて焚いてしまひました。榎を切つてしまつた後には切株が残りました、人々は早速此の坊さんの事を、

「切株の僧正様」。

ミ呼びました。するミ坊さんは又腹を立てゝ、

「ちえつ、切株の僧正様だ、そんな事を言ふなら切株を掘つてしまふぞ」。

ミ言つて、鍬を持つて來て、切株を掘つて捨てゝしまひました。切株を掘つた跡に穴が出來て、其の穴へ、雨水が溜つて池になりました。人々は今度は、此の坊さんの事を、

「掘池の僧正様」。

ミ呼びました。するミ坊さんは又々腹を立てゝ

「えい腹が立つ、埋めてやれ」。

ミ言つて、土を運んで來て、その池を埋めてしまひました。そしたら人々は、此の坊さんの事を

「埋池の僧正様」。

ミ呼びましたミさ。

## 東京女子高等師範學校 保育實習科生徒募集

右は今月二十日頃の官報にて募集されるこ。詳細は同官報並びに、東京女子高等師範學校教務課に付き照會されたし。(學校宛の問合せは貳錢切手封入のここ)

出願期限は、一月二十日より三月十日まで  
でこのこと。



# 園藝曆

(二月 睦月)

大 岩 金

氣節	小	寒	六日頃
	土	用	十八日頃
大	寒		二十一日頃

## 觀 賞

草花類ではゼラニウム、マーガレット、ヴァイオレッツト、フリージア、プリムラ類、ベゴニア、シチリアア、三色堇、ヒナギク、クリスマスローズ、カーナーション、シクラメン、百合、ヘリオトロップ、水仙、雪割草、福壽草などが温室又はフレーム内で今開花してゐるものゝ主なるものであります。

木物では松竹梅を始め椿、南天、棕櫚竹、寒竹、寒ボケ、橙等であります。

## 仕 事

一、病蟲害驅除  
イ、空地をよく耕して充分に風に曝し又よく霜柱の立つ

やうにしましてこの寒さの爲に地中に發生してゐる疾菌の死滅をはかる事は最も簡單な方法であり且つ相當に有效なものであります、又かくする事は單に病害驅除法であるばかりでなく粘重な土壤を膨軟なものに改良する事も出来るのであります。

ロ、害蟲の卵や蛹をこる事、この節最も多く見られますのは櫻、梅その他所々の枝にかく附いて居ります毛蟲の卵(天幕毛蟲、梅毛蟲)であります。一度孵化致します時はたちまちにして枝中に擴がり到底さりつくす事は困難でありますが今時卵をこりますのは小さい子供達にも容易な仕事であり又さまで嫌味を感じるやうな形もしてゐないのであります。

次に多いのはミノムシであります。が到る所の木にぶら下つて居ります、枯枝のやうな殻を冠つて居ります。是も誰にでも手でこれます事と思ひます。

ハ、貝殻蟲の類、形にも色にも様々ありまして一見した所蟲とは思はれないやうに恰かも斑點の如くに葉や枝にくつついて居るのがあります、是等も極寒い時ならへら様のものでおさしておけば寒さで死にますが安全をはかるためには盆のやうなものゝ上に落して焼いておきます。藥劑を使用致しますならば乳劑の類を使ふのであります。

ニ、温室やフレーム内では蚜蟲が最も多いのであります。是が驅除には簡單にして且つ有效なのはニコヒュームの燻蒸がよいやうであります。

## 二、施肥

暖かい日を見ては露地植のチューリップやヒヤシンスなど可愛らしい芽先をのぞかせたものに芽の眞上を離れて薄い油粕、又は下肥の液肥をかけてやります。その外生垣や畑の廻りの木々にはその根元から少しはなれた周圍に溝を掘りこゝに寒肥として下肥、油粕、魚肥、堆肥、骨粉、灰等その地によつて適當なものをやります。

## 三、腐葉土の切り返しをする事

## 四、乾燥肥料の調製又は攪拌

五、温室やフレームにおいては防寒、保温につまめると同時に暖かな日には注意して換氣を充分に行ふことを忘れてはなりません。

## 六、灌水の注意

冬さはいひながら灌水も等閑には出来ないものであります、わけても霜除下などは乾燥しがちでありますから折々見廻つては乾いて居る所には灌水しなければなりません、しかし午後の三時以後になりましたは折角の水が根に吸収されないうちに夜間の寒さの爲に凍結するやうになりますから必ず午前中の十時頃からおそくも二時頃までには終るやうにやりたいのであります。

## 七、收穫

霜除下の菠薐草、コマツナ、二十日大根など小さい手で裁ふにしてはかなりに上成績に作られます。小鳥など飼つて居られます所ではぎんにか重寶しますやら。フレームの中に入れた萵苣です。今は立派に結球しまして花でなくとも新鮮味たつぷりでした所に云ひ知れぬ觀賞價值があるやうに思はれます。

# マ メ マ キ

編者 協音會 繪本歌

一 オ ニ ハ ソ ト フ ク ハ ウ チ  
二 オ ニ ハ ソ ト フ ク ハ ウ チ

ハラ ハラ ハラ ハラ マ メ ノ オ ト  
ハラ ハラ ハラ ハラ マ メ ノ オ ト

オ ニ ハ コツ ソ リ ニ ゲ テ イ ク  
ハ ヤ ク オハ イ リ フ ク ノ カ ミ

## マメマキ

土川五郎

五八

一、オニハ……左向きをなし左足一步前に踏み出し兩掌を向ふにむけ指先を立て斜左前に突き出し直ちに肘を引く  
ソト……右足を出す時又兩手を斜右前に突き出す。  
フクハウ……廻れ右をなし兩手を外方より丸く斜右前に兩指先相對し掌は手前にして物をかきよせる様に手先を手前に引きよせ直ちに左足一步ふみ出し兩手を再び斜左前方に出す。

チ……手前へ引きよせる

ハラ……左足一步前に左手に豆を受け右手にて大きく高く上より左手の豆を取る。

ハラ……右足一步前(だんく)右に廻はりつゝ右手の豆を右方にまく

ハラ……左足前に初めの如くす。

ハラ……第二の「ハラ」の如くして正面になる

マメノオ：左足を斜左前に出し右足を其前に振り上げ兩手を體前上方にまきめ豆を兩手につまめる如くし之を左右下に丸く強く開きて五指を開く顔は左下に向く

ト：右足を斜右前に出し左足を其前に振りあげ左肩を下け體前にまきめたる兩手を左右に開き（金前の如く）左下を見る

オニハ：左向き左足一步前に出し左手（手先きを十分に開き掌を向ふにして）を前へ突き出し右手（手先きを十分に開き指先を上）に掌を後ろに向く）を後方に突き出し顔は右後方に向く

コツソリ：右足前に踏み出す時右手前左手後にして左後へ顔を向く

ニゲテユク：からだを縮めてコツソリミ三步行きて正面となる

二、オニハツト：第一ミ反對の方向にむきて右足を出し兩手を斜右前に出し次に左足前に兩手を斜左前に出すこゝ第一の如くす

フクハウチ：廻れ右第一ミ反對の方向にて同じくす

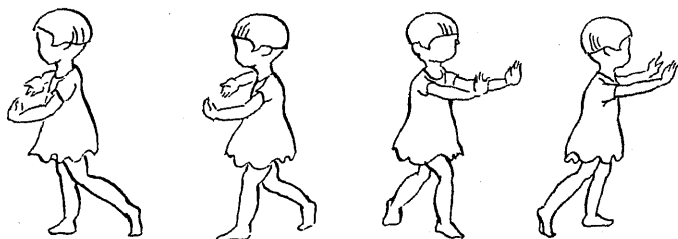
バラバラバラマメノオト：第一に同じ

ハヤク：全生正面となり連手し頭を前に傾け顔を左右に向け右足一步右へ兩膝を屈す次に兩手を高くあぐる時左足を右足につけて膝を伸ばし福の神の入る門を作る如くす

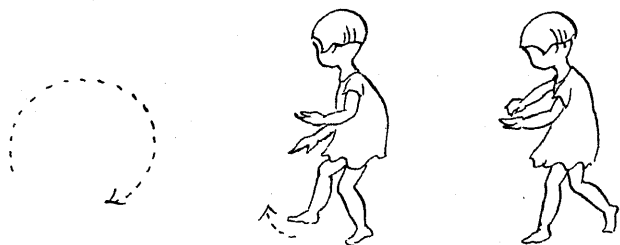
オハイリ：尙一步右へ同じくす

フクノカミ：尙一步してかゞみ兩手を高くあぐ。

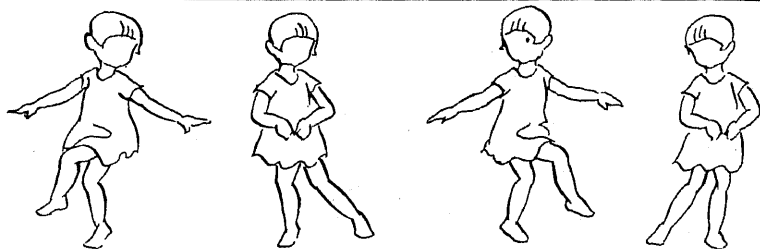
子 ウ ハ ク フ ト ソ ハニオ (一)



ラ パ ラ パ ラ パ ラ パ



ト オ ノ メ マ



ク ャ テ ゲ ニ リ ソ ツ コ ハニオ



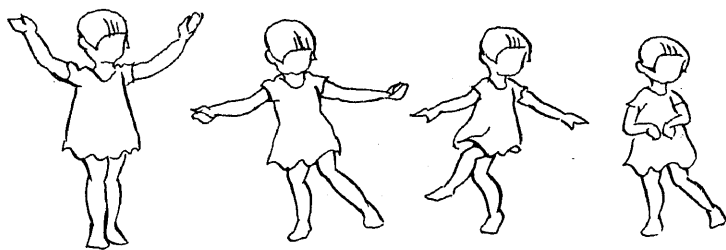
ラ パ° チウ ハ ク フ ト ソ ハ ニ オ (ニ)



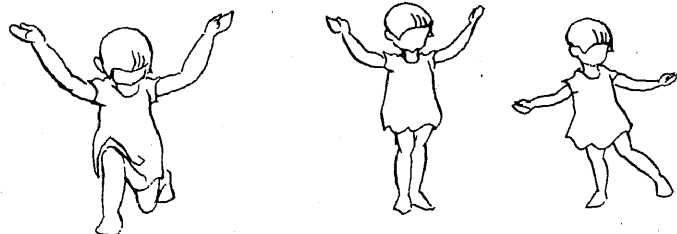
メ マ ラパ° ラパ° ラパ°



ク ヤ ハ ト オ ノ



ミ カ ノ ク フ リ イ ハ オ



# お茶の水時代

— 思ひ出をたどる —

○ 下 田 た づ

抑々私が母校に足を入れましたのは、明治もまだ若い十四年で、その春のはじめ二月で、今の附屬高等女學校の前身であつた、豫科の五級に入學致しました。

其の頃は、本科も豫科も六學級で、一年が二學年になつてをりましたから、二月と七月とに卒業式があり、何れも三年で卒業といふわけになつてをりました。それで豫科生は三級を終了すれば、本科の試験を受ける資格を得ることになつてをりましたので、私は三級終て後直に試験を受けまして、即ち十五年の九月から本科生になつたので御座います。なんですか餘事に渡つてをる様で御座いますが、私の心中ではこの頃からはや幼稚園と、結び付いてをるので御座いましたから暫く、

當時は、聖橋は勿論御茶の水橋さへありませんで、普通交通機關といふものは、人力車ばかりでありましたから、母校の前あたりは實に靜なもので、本所の宅を出まして兩國橋を渡り、柳原河岸を通り萬世橋を経て、ほつとひみ意氣あの聖堂の坂にさしかゝりますと、本の包みを抱へた生徒が靜々あるいて居るばかりで、聖堂の森は綠に御茶の水の流れは清く、こゝで全く心氣一轉、實に神々しい繪の様な風情が見られました。その頃は本統にあるきながらしやべる者なきはあ

りませぬでしたし、校門をはいるこ愈々慎みまして、一步一步踏み占めて行くこいふ風で、今の靴の先きですべる様にして、友達と談笑しながら行くこいふ傍若無人な有様な事は、思ひもよりませぬでした。

聖堂の坂の上には、東京師範學校（今の東京高等師範學校）の門が、丁度今の母校の正門の所に巖然と構へて居て、暫く行くこ稍々柔らかい感じを持つた母校の門が、今の御茶の水橋の門の邊にありました。此の門をはいるこ道は三徑に分れてゐて廣々した空地がある。植込みには梧桐の太木が配置されてありました。

校舎は木造のベンキ塗りで、中央が大玄關左右に同様の小玄關があつて、左方は通學生の出入口、右方は事務室の出入口でもあり、又寄宿生の出入口でもありました。それで大體下は講堂及び教室、二階は寄宿舎で、教員室事務室等は右方に増築された、至極粗末なものであり、又食堂浴室洗面所等は、左方裏手の別建物で御座いました。

それで今の方に申しましたら驚かれ又笑はれるでせうと思ひます事は、小學校を私と同時に卒業した音羽ふじ子が、直に此の學校の豫科に入學しましたのを羨んで自分も入れてほしい、勉強なさは勿論餘暇でよい、うちの用も何でもするから、戸主であつた兄に頼み母の助言を得て漸く願書提出の許しを得、勇んで本所から遙々入學願書を持參致しましたのは、二月の幾日かで恐る恐る校門に入り、受付へそれを出すやがて事務員が出てこられて、今試験をしてゐるから直に其の場にはいつて試験をお受けなさいと申されました。もこより準備もない事でしたから半驚きましたが、一面には喜ばしくもあり、すぐ正面の講堂へミ案内を受けました。はいつて見るこ満員で偉らさうな人ばかり、既に黒板に算術の問題が數題出てをりました。まづ一題づゝ片付けて時間にも外れず人並に出し、それから別室に一人一人呼ばれて、國史略の素讀をさせられ、少しまごついたがそれで試験がすんだわけで、豫科生として入學を許されたので御座いました。

この豫科ミ申すのは強ち本科に入る準備こいふ、爲ばかりではありませぬ様でしたから、小學校を出て尙學ばうこする者は皆これに入學したわけで、自然一つ級の中でもこのまゝ終らうこするものこ、更に本科に進まうこする者この二派に



なつて居りましたが、本科にはいる方は少う御座いました。女學校といふものは府立女子師範學校の外は、こゝばかりでしたから斯様になつたものでせうが、今の高等女學校の生徒の様ではなく、特志の人が遠方から通つたもので御座いました。

よく幼稚園の幼児が成人の後、幼稚園の藤棚お池お山なご、深く印象して居て、話題に出されますが、私もあこがれてくどつた校門ですから、五十一年後の今日迄もその試験場の有様や試験官の御様子、まざまざ心に残つてをります。その時やはり若い先生方の御風采が最も眼にうつりました。穂積銀子先生その當時上野先生が、試験場に御出でになりましたが、御召しは蘭紬の鶯色でお羽織は黒の毛襦子に縫紋をされたものでした。今考へますと十九か二十歳で御出ででしたらうにお地味なものでしたが私は、唯々威厳のある御立派な御方と存じ上げました。その後算術地理なごの御教授を受け愈々敬意を表してをりました。此の頃本科御出身で尙外に、藤田光子先生當時丸橋先生、吉田伸子先生當時師岡先生なども豫科生の御教授をなさいました。藤田先生は主として植物、吉田先生は主として化學に御出ででした。

其の頃は全體木綿から銘仙位の着物には、黒の襦子又は毛襦子の半襟をかけたもので御座いましたが、此の學校に來て見ましたら誰も半襟をかけたものを着て居られないので、もごより木綿の着物ながら半襟をこつてもらつたり何か大騒ぎをいたしました。又生徒同志の辭さいふものが一種外に變つて居たことが耳立ちまして忽ち眞似ました。それからその辭は學校辭と申してよくないといはれたものでしたが、今は東京の辭の様に人が申します。よくつてよ、知らないわなごに申す様なご。さて段々餘談が長くなりましたが、かうして豫科生として通學してをる間に、花にもました美しい感じを與へてくれましたのは、幼稚園の幼児達で御座いました。幼稚園の場所は丁度今の所で西側に門があり、建物は今思へば屋上庭園でもありさうな屋根の形で、南の方は軒に續いて藤棚があり、その下は芝生の様でした。それから何の障る物なく、南方御茶の水の通りの所まで花壇が御座いました。これは幼稚園のものではなく、植物研究の資料と存じましたが、

幼稚園との間に何の區劃もありませぬでしたから、生徒も芝生の邊へ行き、幼児もこの花壇の間を蝶の様に縫てゐるいてるたものでして、服装は男も女も長い袖の美しい着物で、男の子の内には袴をはいて黒の紋付の羽織を着たお子もみえました。小西先生はお羽織袴という御姿で、旗を持つてお走りになり、そのあゝを幼児が鳩の様に群れて追ふのを時々見受けました。豊田先生や近藤先生は丸髻に御上げになり、横川先生は銀杏返しにお結ひになつて、幼児の手をお引きになりこやかに遊ばして、おはなしながらこの花壇の間を、おあるきになるのは多分毎日の事で御座いましたらう。

豫科生は晝食後の休み時間に園へ行きませうと、三三五五連れ立つて此の方面をあるいたものでした。花壇のある所を園と稱へてをりましたが、眞の樂園とは斯様な所を申すのであらうと思ひました。今考へても夢の様に浮んで参ります。

こゝで幼稚園に最も必要な音楽の事唱歌に就て申さねばなりません。此の頃の唱歌は主として古風な歌に、宮商角徵羽の譜を付けたもので、宮内省の伶人が御出でになつて教へられました。時間外でした。又本科の上級になりますと伴奏になる和琴等なごも習ひました。此の當時文部省の音楽取調所（今の音楽學校の前身）がこゝにあり、アメリカ人のメーソン氏が多分囑託をかいふのでありましたでせう。お出でになつて居て、學校へも唱歌を教へにお出でになりました。小學唱歌集といふ様なものを習ひ、音階なごもはじめて練習いたしました。たしか時間割を變更したりして各級合同で時には本科も豫科も一緒になつて練習した事も御座いました。私共は西洋唱歌を申してをりました。今の唱歌の初めて御座います。これで幼稚園の唱歌に就いても變動が起つたを存じます。メーソン先生はバイオリンをお用になりましたが、幼児達にも歌はせてお出でになる處を御見受けいたしましたことも御座いました。十四年の頃かを存じますが、音楽取調所の催しでしたらう、私達生徒全體が聖堂の中の大殿へ連れられて、春の彌生だの螢の光なごをうたはせられました。所謂西洋唱歌を一般に知らせる爲だか承りました。聴衆は官吏か教育家であつたらうと今想像致しますが、満堂唯人々晴れやかなもので御座いました。その後餘り長くなってメーソン先生は歸國されました。私が本科にはいつた頃には早や御出で

はありません(無論西洋唱歌を盛にうたひましたが、奥好義先生が御教へになり時間割なきもきまつてをりました。時の音楽取調所長は伊澤修二氏でメーソン先生は所長ご意見の合はない所から歸られるなき私共生徒の耳にいらぬこゝまではいりました。メーソン先生は可なりな御老人で、熱心に親切に教へて下さいましたから、生徒達は御歸國の時に大層別れを惜しみました。學校では全體の生徒を集めこの先生を中心にして、表玄關で寫眞をお撮りになりました。幼稚園の幼児もはいつたご存じます。小西先生なきは深い御印象がおりでせうご存じます。

メーソン先生は日本語はおわかりにならず、私達は無論英語のわかる筈も御座いませぬから、いつも通譯の方が御付きになりました、岡倉先生ごいふ方がよく御出でになりましたが、きつご今英語で有名な岡倉先生のお若い時であつたらうご存じます。又後に高嶺先生の奥様におなりになつた中村せん子氏なきはバイオリンをお弾きにもなり、助手の様にして通譯もして下さいました。私共はもう一度ごおつしやることだけわかつてをりました。再唱させられる時必要な御辭で御座いましたから。

音楽の序に考へ出しましたが私達は、唱歌の歌を琴で弾く事を習ひました。普偏的な樂器を用ゐて何處でとも教へる事が出来る爲ごいふことで、時に附屬小學校で試した事もありましたご存じます。先生は立派な方その當時でも第一流でお出でになつた山勢杉韻先生で御婦人の助手を御連れになり、丁寧に教へて下さいました。寢屋の板戸ごか美しきご思ひ浮べられます。その後大阪の幼稚園でも琴をお用るになつた事があつたご承りました。

○

私は十八年の三月から教生として幼稚園に参りましたが、この前何年の事でしたか嵐の爲に幼稚園の屋根が吹き飛ばされましたので、その頃は本校の東方の一部を仕切つて幼稚園として居られました。薄暗いやな室で、遊び場所も前の所ではなく小學校の藤棚の下なきへ出て遊んでをりました。組は年齢でわけられて五組あつたかご存じます。私は四の組へ

出ました。御擔任は加古烈子先生でした。たしか存じますが御病氣で一回も御指導を頂く事も出来ないで困りました。組は三十人ばかりで長壽吉さんとか井上達二さんなどが居られました。幼児の机には碁盤目が刻まれてありました。

それから十八年の七月に卒業をして、二十年の九月に幼稚園に奉職することになりました。佐方しず子先生と友人の音羽ふじ子の推薦で本官ではないと申されましたが、そんな事を考へる餘地は私には御座いませぬでした。唯母校の幼稚園と承り入學以來の喜びで、先輩に就て十分に研究も出来る大きな望みを抱いて出ました。

この頃幼稚園はここに在つたかと申しますと、震災にかゝつた建物で校内第一といはれたものでした。僅二年程の間に能くも變つて立派になつたものと驚きました。翌二十一年の五月に訓導を拜命して組擔任になりました。この頃は保姆の稱はなく訓導で保育係を命ずるいふ辭令を別に頂くので御座いました。組は年齢で四組に分れてをり、一組四十人位で擔任の外に助手があり、机は二人用で碁盤目は刻まれたのではなくて書いたもので寸法はインチになつてをりました。鳩山文相なども此の時分御在園でした。幼児の服裝は今と餘り、違はなかつた様に存じます。筒袖や洋服でしたが、鳩山さんその外二三の方はズボンでなくて襪のあるスカート風のものをおはきになつてをられました。

そして保姆達は競つてピアノの勉強をいたしました、本校の奥先生について朝二時間も前に出て練習もし稽古も致して本校の祝賀會などに出てモザートのソナタの連弾位もいたしました程でした。音羽さんはバイオリンをもなさいました。ここに思出の深いのは、皇后陛下行啓の御時の事で御座います、よく唱歌や遊戯をさせましたが、遊戯でも辭を一つも申すことなく唯ピアノの指揮で動作をいろいろにかへます、練習したこはいへ幼児にして感心なものだと思はれた位で、今でも其の光景が眼の前に浮びます四十年餘の昔の事で御座いますが此の人々の記憶にもきつて明に残つてをる事で御座いませう。取り止めもなく長くなりました、これで筆を止めませうと存じましたが、更に改めまして書きおきたい事が御座います。

## 東京女子高等師範學校附屬幼稚園の移轉に付

氏 原 鋳

東京女子高等師範學校附屬幼稚園は、我國の創立にして明治九年十一月今より五十七年前開園爾來此永き年月を我全國幼稚園の模範となり指導者となり多數の保育者を養成し幾多の幼兒を保育して我國幼稚園の今日ある基礎を立てられ、歴代の職員諸氏は常に斯道の研究に努力せられ今日の發展の折柄遠からず（來一月頃）大塚に新築の廣くうつくしき園舎に移轉せらるる事となり益々輝やきを添へる事を慶賀す。

現在お茶の水の地は我國幼稚園の創業の地加之我全國幼稚園の模範として約六十年間多大の役目を完ふせられ且長くも數度の行啓を仰ぎし等の思ひ出深き場所なり。此比類なき事蹟を何にかして此處に永久に紀念すべき印象を残すの方法のなきものならんかこ懷舊の念は此園の關係者殊に出身者の同感なるを信ず。併し之れは思ふべく行はれざるものこそ最も残念に唯涙を吞み痛嘆して諦むる外なき衷情をお察しいただきたし。お茶の水幼稚園に關する記事も之れが終筆として簡單ながら記るして、此思ひ出多き場所に惜しき別れを告げんす。

### ○第一、行啓の事

明治時代より昭和時代に於て、最初は英照皇太后 照憲皇太后の兩陛下お揃ひの行啓あり、此時幼兒の遊嬉、風車水車を御覽に入れたり。

次に今上皇太后陛下下の行啓あり。陛下は御幼時九條家姫君にて此園に在らせられたので當時の御思ひ出の事柄に付種々御下問遊ばされ御懷舊の情深く在らせられたり。茲に陛下御在園の當時保育申上げし澤田保姆に對し畏くも此舊師に厚き御思召を賜はりし次第を謹記す。先づ澤田保姆の經歷より述べます。

澤田氏は舊姓須田喜代子東京女子高等師範の出身卒業直後お茶の水園に在り後京都府第一高女に勤務、後神戸市須磨區西代通二丁目二六澤田甚兵衛氏に嫁し、神戸市北部幼稚園長として勤められし事あり、實に氏は複雑なる家庭に在りてよく範をたれ、近隣を化したる立派な婦人でした。身高等教育を受けて居ながらむしろを織り畠を耕し義子を育て親類仲よくする等ミても筆紙に盡しがたき苦勞でした。天は尙此婦を惠まず、主人に死別し我子ミてはなし心淋しき折柄盲目になりました。それでも失望せず心眼が開けたミて盲目で手紙をかき裁縫をなしまことく涙がこぼれました。此事情を神戸幼稚園長望月國子氏が當時の兵庫知事有吉忠一氏にお話しになりました處、澤田氏が卒業直後お茶の水幼稚園に従事して、皇太后陛下が御入園の時御手を取つてお導き申上た事を思召され、陛下神戸へ行啓の時須磨の離宮で知事を召され、幼少の時の事ミて、十分な記憶はないが盲目になつたミはあはれな事であるミ稱せられ、御菓子料ミして金二拾圓を御下賜になりました。子息甚兵衛氏は大に感激し家門のほまれミ、澤山のお饅頭を作らせ親類知己に配りました(之れは大正十一年五月六日の事でした)今迄盲目の取るに足らぬ老婆の一躍して光榮ある、天恩の許に感涙にむせばれました。全く有りたい事で御座いました、後間もなく赤痢で死亡されました。以上は、澤田喜代子氏の皇太后陛下より有りがたき思召を拜されました次第で御座います(以上は望月氏より承りしお話)。

近き行啓ミして、今上皇后陛下の親しく保育の状況を御覽遊ばされて最も御興味深く拜され御豫定の時間を超過遊ばされたり。

○第二、御茶の水幼稚園が我保育界の爲めに盡されし事ミ

#### (一)唱歌

今日幼稚園小學校中學校女學校で唱歌を正科ミして用ひられ其材料も豊富で之れを施すに何等不自由なき時代ミなりたるも、昔時は此唱歌を得るには極めて苦心なりし次第を述べます。其當時の保姆豐田英雄近藤濱の兩先生が自ら唱歌を用

作歌して之れを宮内省雅樂部の伶人先生に作曲を願ひて使用する言ふ自ら作らされた唱歌のなき時代なりし。斯くしてひられたりしは此御茶の水幼稚園が我國の嚆矢なり。之れが基礎となりて、附屬小學校本校等に用ひられ後全國に及ぼすに至れり。明治十四年頃官立音樂學校が設立なり、唱歌集の出版あるに至りて此獨特の舊唱歌は用ひぬ様になりしも兎も角此唱歌が今日唱歌の基礎をなしたものなり。前記作曲を願ひし宮内省雅樂部の伶人(官名)も多くあるも其中の主もなる作曲者の名を擧ぐれば東儀季芳、芝葛鎮、林廣守(國歌君が代の作曲者)の諸氏にして尙多、豊、上、奥、山ノ井、諸氏あり。以上雅樂部に屬する諸氏は當時牛込なる、雅樂部附屬の音樂講習所に於て、西洋式歐洲樂の練習を外國人に就てなされし之れが現今上野の音樂學校の前身なり。

#### (ロ) 遊戲

遊戲も唱歌同様に此園に於て始めて作り用ひられしもので、唱歌と同じく其意味を獨逸のものより取りてなされたり。之れは唱歌の如き創作上苦心は餘りなかりしも、相當に考慮を拂はれたり。其最初は、風車、水車、門、環、蓮の花、家鳩、兎、民草等なりし、之れが今日の遊戲の基となりしものなり。

#### (ハ) 豆細工の改良

昔は大豆に木箸を以て作りしもの、之れを豌豆ミヒゴ(細き竹)に改めて其大豆の細長く面の扁平なるに代るに豌豆の圓き面木箸の豆にさしにくきを細竹のさし易きものに代へて此製作上幼き者にも容易に爲し得らる様に改良考案者は近藤濱先生なり。依て此近藤先生の恩恵を思はれたし。

#### (ニ) 保姆の養成

明治十一年より保姆の養成を始められ同十三年に至り本校生徒の保育練習の爲めに之れを廢されたるも、同二十九年に至り本校生徒以外にも保姆養成を爲す事となり、保姆實習科と改名して引き續き養成して、多數の保育者を出し全國幼稚

園の爲めにす。此卒業生を以て第一番に開園せしは大阪府で次は鹿児島縣なり。

(ホ)幼稚園に關する參考圖書

二十遊嬉 幼稚園記、幼稚園、思物圖形、幼稚園創立法、動物圖解、保育法筆記、唱歌書。

(ヘ)フレーベル會

保育が向上進歩を計る爲めに園内にフレーベル會を起し最初は、市内保育者の會合なりしも漸く全國に及び毎度保育講習會を開催して保育者の爲めにし、又會誌を發行す。後婦人ミ子ぎもミ改題す。之れ現在日本幼稚園協會の幼児教育の前身にして、誌面の結構は益々斯界の爲めに多大の利益を附與せられつつあり。

以上は此園の五十七年間の長き年月に於て我全國の保育界に貢獻せられし主なるものなり。尙此他にも記る事あるも此處に略す。

終に此園最初の構造の他に多く見ざるものなりし事を記るす、本園の建物は長方形で床高き事は普通のものでなかりし之れは其建物の地下全體を大人の立つに尙餘裕あるもの之れは其地下の中央に、大燐房の裝置あり、此處より全園内に熱度を送りて溫を取り、幼兒に危險なき溫度の取り方なりし。此構造は他に見ざるものなりしも此折角の準備も其構造に缺點ありて、溫熱のよく通し兼ね廢物となり居たり。此大きく廣き地下を利用せし面白き話あり。當時交通機關は電車なく比較的遠方通園の幼兒は自用人力車によるので、此の車夫等の供待所の設備なき園の車夫等は事務所に向つて何れの諸官省にも供待控所あるに此處になきを大に不平申出たれば、仕方なしに此地下を利用して供待所とされたり。車夫等はこんな處に入るのは恰もモグラモチだと言ひつゝ此地下に入りたり。それで事務員も車夫等も共に大笑ひをなしたり。

此地階に木炭の置場あり、其廣き本校の炭も入れてあり或時本校の使丁が炭を出しに入りて長時間出て來らざりしを幼稚園の使丁が案じて見に行きました處、本校使丁がそろ／＼炭を持つて出て來たので、幼稚園の使丁が君さうした病氣



でも起つたと思つて見に來たと言ひました處、本校使丁は、それは濟まなかつた、實は炭の中で餘り涼いので暫く晝寢して忠臣藏の師直のまねをして居たと思ひましたので大笑しました。(右は創立當時の建物の床高かりし事に付ての笑話なり)

○

## 室田その子

お茶の水それはなんぞ懐しい名でしょう。お茶の水云ふ誰でもすぐ小學校を連想いたします。其由緒ある土地をはなれて來春から女子高等師範學校と共に大塚へ移轉する事になり誠に名殘惜しい感にうたれます。私はお茶の水に近い松住町に生れ、今より凡そ五十二三年前の幼稚園児でございます。今では頭は白髪を交え顔は皺だらけの婆々でございますが、其當時はまあ可愛らしい兒であつたろうと思ひます。(是は一人ぎめですけれども)唯今は又毎日孫の送りむかひに參つて居ります關係上、一こしはなつかしいと思ひます。幼い兒達が無邪氣に遊んで居らるゝのを見て居りますこゝ面白く心もはれやかに自分ながら氣がわくなりし様に思われます。併し先生がたの御面倒のよろしきには幾重にも難有、とても眞似は出来ないと思つて居ります。授移轉につき舊き思出を何なりと書けよと御依頼を受けましたが、元來筆不勝殊に記憶の至つてよくない者が五十年も以前の事、何一つ覚えて居らず、達て御辭退申しました處一つでもよいから書けとの仰せに據なくお受けは致しましたけれども、是れこいふ確なる事も覺えず、其當時のお友達に二三問合せましたが皆何分あまりふるのでおぼえて居ないこの御返事につかりいたしました、幾分おぼえて居ります事をお話し致します。

先づ場所は今の處で、建物は木造にて椽高く一階建にて、出入には廊下より四五段おりてお庭へ出し様に覺えて居ります。前は廣い芝生にて、お山もあり、左手に大きな藤棚があつて、お池もあつたやうでした。芝生の先きの方に塀があり女子師範の寄宿が建つて居りました。御門は順天堂病院の横手に向つてあつたと思ひます。組は今の様に海山等の名は

なく、たゞ一の組二の組三の組と申し、新入の者は三の組へはいるので、年齢は満三歳より小學校入學迄と覺えて居ります。私は明治十三年頃より十五年迄居りました。其當時お友達として九條様三條様の御姫様もいらせられました。よく黄八丈のおめし物に紫のお袴を召し、おかつぱにして稚兒鬘に結つて居られたのを兒心に覺えて居ります。先生がたも幾人かいらせられしも其内に加藤先生を一番よく覺えて居ります。お友達の話に、鳩山先生や西洋人の先生もいらせられしと伺ひましたが、私ははつきり覺えません。又在園中、照憲皇太后陛下が臨御あらせられました。確か私が六歳の時と思ひます。

お細工は折紙粘土豆細工等いたし、よく色紙と麥藁を絲で通したのを首にかけて家に歸りしを覺えて居ります。唱歌も遊戲もございましたが、樂器は何んであつたか覺えません。たゞ遊戲の内、皆さんで手をつなぎ輪になつていたします(民草の盛ゆる時と苗代の)といふの(家鳩の)と(猫と鼠)等はよくいたしましたから覺えております。女の子は又毬や羽子をついて遊び、男子は木の荷車があつてそれに乘つたり物をのせたりしてあそんで居たのを記憶して居ります。

以上おぼろけながら、私のおぼえて居りました事をお話し申上げましたが、何分ふるい事とて思ひちがひ等もございませうかも知れませんが其邊はさうぞおゆるし下さい。

——いこも舊き 幼稚園兒の一人——

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 吉岡郷甫  
主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三  
附屬幼稚園主事

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員ダラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
  - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
  - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
  - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
  - 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
  - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

## 定價

拾貳冊送金貳拾錢	拾貳冊送金貳拾錢	拾貳冊送金貳拾錢	拾貳冊送金貳拾錢	拾貳冊送金貳拾錢	拾貳冊送金貳拾錢
一ヶ月分	一ヶ月分	一ヶ月分	一ヶ月分	一ヶ月分	一ヶ月分
金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢
特等面一頁二面一頁	特等面一頁二面一頁	特等面一頁二面一頁	特等面一頁二面一頁	特等面一頁二面一頁	特等面一頁二面一頁
金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢
一等面一頁一頁以下	一等面一頁一頁以下	一等面一頁一頁以下	一等面一頁一頁以下	一等面一頁一頁以下	一等面一頁一頁以下
金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢
神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田
奥松に御申込下さい	奥松に御申込下さい	奥松に御申込下さい	奥松に御申込下さい	奥松に御申込下さい	奥松に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
昭和八年一月十二日印刷納本  
昭和八年一月十五日發行  
幼兒の教育 第三十三卷 第一號

## 不許複製 轉載

## 發行所

日本幼稚園協會  
振替口座東京一七二六六番

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
編輯者 倉橋惣三  
印刷者 柴山則常  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 倉橋惣三  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

## 注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。



# 保 育 證 書 と 表 簿 類

幼稚園の御經營に幼兒保育に、何れも永年の御經驗を持つ先生方が、種々の御意見を持ち寄つて按配された表簿用紙と保育證書。

◇保育證書——堅緻な厚手の上質紙に文字を墨に、周圍輪廓を金刷に致した壯麗なもの、夫れに姓名年月日等を書き入れるやうになつてゐます。御園名入りの印刷は成可く即刻御用命を。

一〇〇枚	園名入	金 四 圓
五〇枚	園名入	金二圓五十錢
無 名	一 枚	金 五 錢
◇出席簿用紙——一〇〇枚		金 一 圓
◇豫定案兼日誌——一 冊	(二年分)	金二圓二十錢
◇在籍簿用紙——一〇〇枚		金 八 十 錢
◇月 謝 袋——一〇〇枚		金一圓四十錢

以上何れも強靱な上等紙質に到れりつくせりの各欄を配し、何れの御園でも直に御使用に遺憾なき各園必備の表簿類。

## 株 式 會 社 ル ベー ル 館

本 店 京 東 田 神 育 教 會 館 内 電 話 九 段 (33) 三 八 二 七 番  
支 店 大 阪 區 平 野 三 町 電 話 本 局 一 三 八 番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
(毎月一回十五日發行)

昭和八年一月十二日印刷納本  
昭和八年一月十五日發行

定 價 三 十 五 錢